養痾漫筆

昭和十六年三月大阪

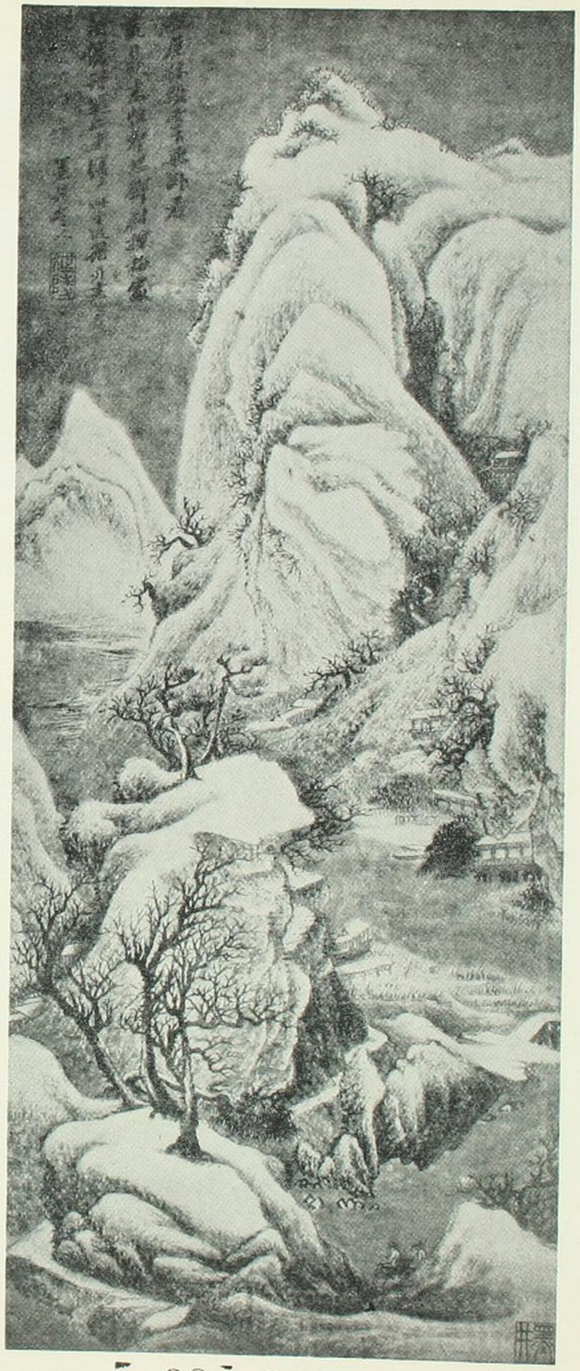
八

特別
14
1919
509

176774

(一)昔し茶道の流行した時、珠光の[illegible]禄とか陶元祐とかいふ名人があつたが、今は茶[illegible]のスワンコロクの[illegible]をスンコーロクと訛つたりして、土中品位を発掘さん、北のやきもの[illegible]。

(二)バンカンは国[illegible]エーゴ、スヰスロウエヌ王国と呼ばれ[illegible]で改元を行ふさうで[illegible]の[illegible]の民族が混合[illegible]



清、吳歷筆　溪山密雪圖

38- 9235

二枚の図許りをかゝげてあるに過ぎない。
これは狗を人が殺して喰ったのを図解したのである。
○也阿弥の心中は川柳ありありと、「討体刺一億の民は役かつき」とうたったのがある。尚ほよく翼賛会の本音を現わしてゐる。翼賛会は今は二億国民のうち決して官僚などで使役されて動くものでなく国民の一人一人が銘々の役目を銘々自ら行ふべく翼賛の趣意を解することをうたひ
○狗と人が体を合せて白耳義を攻めた絵を以つて英の本国と植民地との離間策を講じてゐるのである。
待つてゐるのである。今以つて英の本国民は植民地人を入れ込んでゐるのである。
侵してゐるのである。毎日の様に英国の空襲をいやがらせ破壊を焼夷

複製禁止

こうして英国への流入を幸ひ抵抗しようと今以つて降服もしない英国の抵抗力を弱めようとする狗の英国を元行為である雷艇と撃沈をする英国全船舶の三分一をあやめた英の本土を侵すことをあらゆる国の外交の陰と政治で希土ある軸の国々と参加をする狗の代表をつぎつぎと殺しとうとう狗は七頭殺すことをもって英国の近海を少しでも狗の勢力を弱めてみる狗と人間仲間甲羅のあんばんかんのかぶとをぬぎかゝとんぼをきる狗と狗とを挑ませ狗と狗とを噛ませ狗と狗とを喰ひ合はせ最早英国の滅亡は狗の狗による狗のための狗である。

複製禁止

北の脇が雨雪の下おろそ珠重さんそみる歌、北陸地方の住民を
回る度に或る試験をしれることが出来るなしみれ、それを暗を割き
コノ男を取出し検査する時さえ
リ出してそうと、追々動き出が繰合せ逃る後無き事を
まるしれとも、折くそれは実物もコノ男がこれも深いこれも
一行の検査法である。
の昔し相通時代し物価の地図を作つて江戸お探りの刑を受ける
人がいく人もあるれ。四ヶ国の事情や地理をお
ら洩らさことを肝要の無理でも事で幕府もこんを忘ん
ながらも迫れもスパイし対し物価の地図を受ることのできん
撃戒もあるとやくんが、だもうくきすると思よ。
の茶と仏印との浄議は日本が油停の為め在ねる動ん油停がもつ

標原製

ばが、えらは日まが亜の倒亜の事は亜細亜が実現するの第一歩を踏み出
しんとの、自分ではある仏印が軽視され日本の国が
油停が成功すれば日本の国が
新かでる新聞を及ぼすを仏印から取発すれば
国もえを次ぐ自国の私力の満ちる洩すること信に頼る物質
を交換れば日本の外交が強かつれ為め仏印も益々圧迫され
くるう泰を援つてこうる油印が成り泰をも大いる支配されこと
んが強力外交の一試験で、号一つとき微温的の一歩を関係文化
八性れ外後を悟するのぜ仏印の得る所もるん、北の成功を日本
外交の近来の勝利である。
日本の油停が成功すると教を外相を支えを踏起して物伊支那の依頼も

肚を割つて

松岡さんの ヒ總統觀

お歴々もアッと朗笑

【ベルリン本社特電廿九日大島特派員發】廿八日午後二時からベルリンの總統官邸で行はれたヒットラー總統主催の歡迎午餐會の席上、松岡外相はヒットラー總統に例の調子で、まづ八紘一宇の精神を說明したのち、肚をうち割つてヒットラー總統觀を披瀝して、ゲーリング大ドイツ元帥、リッベントロップ外相、レーダー海軍總司令部、ブラウヒッチ陸軍總司令部、カイテル陸軍司令部參謀長官はじめ、ゲッベルス宣傳相まで滿席する大ドイツ政界の大立物をアッといはせた、即ち松岡外相は

「一九三三年ジュネーヴで國際聯盟脫退の演說をやつたその瞬間、自分の肚はすでに決つてゐた、即ち日本は今後ドイツと手を握る進路にあつて、これを基調として日本の外交は進むべきだと、ところがドイツでは誰が話し相手として適當かは當時はつきりしなかつた、ただ影武者として暴風しつゝある國家歷史義運動の指導者としてヒットラーといふ人の人となりを觀察するのが一番よいと思つて、英米の知人に意見を求めると皆と全部が「あれは多少氣が狂つてゐるぞ」といふ忠告であつたしかしこの時一つの大きな轉機にぶつかつた、かつてケーテ、シルレルを出し、カントを生み、ベートーヴェン、ワグネルなどの天才を輩出した國民がよりによつて一人の氣狂ひに盲從する筈はないではないかと思つた、しかし時の經過と共に英米人の觀察が全く外れてゐることが發見された

新國家再建の烽火たる現狀打破を恐れるものにとつては實に正氣の沙汰ではないにきまつてゐる、ここで自分ははたと膝をうつた、成程世紀の偉材である事に相違ないと、時の經過は自分の確信を强めるばかりで、この人と肚を打割つて話るときが必ず來ると信じてゐた、果してその時が現在やつて來た」と述べたものである、獨逸の經濟

高位高官はジュミット氏の通譯でこれににこ〳〵と聞入り、總統の明瞭な態度を見つめて「ヒットラー總統にこんなことを無遠慮にいつたことはいままで一人もなかつた」と驚いてゐた

ベルリン市の 黃金書に記帳

【ベルリン本社特電廿九日發】松岡外相は廿九日ベルリン市の黃

複寫禁

マアチナリヤ

倫敦出版街の戦禍

東司郎

筆者はグウテンベルクの五百年祭に際して、この欄でライプチヒでの印刷文化展のプランを紹介した事がある。そして開戦當初のこととて、獨英空軍が互に宣傳ビラばかり放け合つてゐるのをひやかして、次のやうに書いたものである。

――いつそ獨逸でもたゞの爆彈をやめてグウテンベルク爆彈で戰ひ、雙方その空襲ばかりやる無血「大戰」を始めたらどんなものだらう。それなら一切の文化が破壞されることなく、五百年記念を前にして、グウテンベルクにはいゝ供養になると思ふが……。それ語に曰はずや「活字の一つ一つ、すべてグウテンベルクの記念碑たらざるはなし」と。

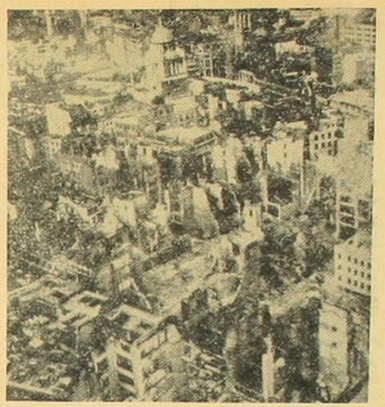
ところがそれも凡慮のなせる業で、獨英空軍の素晴らしい活動といふものが、爾後盛んに行はれて來てゐる。佛蘭西敗退後歐大陸に足場を持たぬ英空軍は、易々と獨逸の心臟部を脅かすといふわけに行かないだらうが、諸般に更にドヴァの岸に基地を有する獨逸側は、それこそ日課として英本土爆撃を繰返してゐる。宣傳ビラの神經戰なんかほんのトバ口で、五百キロ、千キロ爆彈での狙ひ打ちを、到る所で敢行してゐる。

はじめの頃はテエムズ河口の軍事施設や軍需工場、食糧品倉庫などが目標とされたが、去秋からは首都倫敦に的が移され、防禦砲火の網を突破して晝夜の別なく爆彈の御見舞を續けて來た。お蔭で市民は甚だ不粋な穴つぱひり生活を餘儀なくされ、いとゞ日影の薄い倫敦の、日の目をゝがむことも少くなつた有樣である。

反覆される爆撃で、どんな損害があつたかは其時々の新聞電報で御承知のことゝ思ふが、一般には餘りくはしく知られてゐない方面で、意外に大きい打撃を受けたものがある。それは出版界だ。東京の古本街が神田だといふやうに、倫敦の出版書肆が聖ポオル寺界隈に集つてゐたところから、舊臘二十九日の爆撃で軒並壞滅の厄に遭つたのである。灰燼六百萬卷――この數字だけでも、以てその損害

の甚大を知るに足るだらう。

もつとも、その前にも、話の種がないわけでない。即ち倫敦爆撃がいよいよ開始された九月に、市の中心地では本屋の窓がこはされたとか、時計仕掛爆彈と隣組になつたので休業とか、そんな程度であつた。たゞ北倫敦の方が相當やられたとばつちりで、印刷所製本工場倉庫等が二三傷手を受けてゐる。中で目ぼしいところではかねてお馴染のCassell——これは秋のシイズンのために準備成つた未刊行本のストック、刷り上がつたばかりのものや製本濟みのものをこめて、根こそぎおやんにして了つた。新にやり直すといつたところで急場の間には合はないので、秋のプログラムが滅茶滅茶になつたわけである。



Dooley Service では店口に故障が出來たから裏口から客を入れるとか、夜中の十一時 Faber 氏の住居に時計仕掛爆彈が落ちたのを、三十呎しか離れてない寢室で翌朝遲く迄氣がつかずにゐたとか——そんなところで濟んで、九月以降の出版シイズンは反つて例年よりも好況裡に、クリスマスをも大福々で迎へたといふ次第だつた。

ところへ、暮も押つまつた二十九日に、全く度膽を抜かれるやうな三時間に亙る大爆撃に見舞はれたのである。「一望の下滿目荒涼の跡あるのみ」と、Bookseller 誌の一月二日號に Petrel が記し、更にその爆破の慘狀をくはしく述べてゐる。曾て想像したこともなかつた程の壞滅の光景である。「翌三十日の午後に到るも、各出版社の地下室では、何萬何十萬といふ本の殘骸が搖ぎながら燃えつゞけてゐる。火氣と毒煙のあふりが街々を吹き荒れ、倒壞した建物の裾にホオスの水が徒に注がれるばかり……舗道がどこかもまるで見極められない。西は Warwick Square 東は Ivy Lane, Paternoster Row から Newgate Street までといふもの一體、碎けた煉瓦の海の起伏を見るだけとなつた。……さきの日に本のストックに滿ちてゐたそれらの地下室は、今や City の書籍界の火葬場に化して了つた。」

さういふ描寫は、新聞報道での他の町々の慘狀に「本を加へた光景」に過ぎないから省略するとして、この City の書籍界が一ぺんに火葬されたといふ言葉だけには、特別の實感が籠つてゐること疑ひない。何となれば、倫敦出版書肆の大半は、事實聖ポオル寺の居まはり方一哩の間に群居してゐたからである。Paternoster Row, Paternoster Square, Amen Court, Stationers' Hall Court, Ave

在りながら火災の映は免れたが、消火の水のためにストックを駄目にしたやうなものもあり、Oxford University Press の如きは全くの重傷である。さらに相當祟られた Cassell の營業所は Ludgate Hill にあるが、當日も燒夷彈に見舞はれた。そして屋根を貫いて室内のデスクで燃え出したところを、會社自身の屋上看視當番が早速機宜の處置を執つたので、大事に至らずに濟んだといふ話がある。——この災厄の後、勿論各會社はそれぞれ適當な場所を求めて業務を再開し、業界週報には立退き所乃至新營業所のリストも細々と出てゐて、大に倫敦出版界に捲土再來の意氣あるを語つてゐる。第一 Bookseller 誌そのものも、Warwick Lane の Whitaker 會社の建物にあつて、共々に燒け出されの身であるにも拘らず、爆撃にもめげずに直ちに避難先で一月二日號を出し、英國出版業の機關誌たり指導者たる實を示してゐる。

そして六百萬卷燒燼を未練がましく歎かぬのみか、これを英國出版界更生の好機會となし、出版街たる Paternoster Row の復興は勿論のことだが、今こそ書籍配給の全機構を改組すべき時だと、大に革新の叫びを上げてゐる。現行組織は丁度從來の建物と同樣に、非經濟的でもあり時世遲れでもあつた。そのボロ屋が跡方もなくなつたやうに、古い商賣振りを亡ぼして、效果的な新しき大同共力の道へ進まうといふのである。

さうなれば、この出版街の爆災も、禍轉じて福となる勘定だが、たゞ本屋の小僧として一番さきに來るのは、六百萬卷の本の山である。一册一圓づつに賣れば六百萬圓、折角の商賣物を惜しい事をしたといふ氣がされる。しかし更に按ずるに、この爆撃は、はじめから出版街を狙つたかどうか知らないが、獨逸にとつては金高でたつた六百萬圓？　の敵產を壞滅したよりも、數倍數十倍の效果を收め得たことは明かである。

即ち六百萬册の本が世界に流出される時、それは英國文化の弘布でなくて何であらう。之を一擊の下に壞滅させたとは、流石に電擊戰の家元だけあつて手が早い。六百萬の英國製グウテンベルク爆彈が威力を發揮しないうちに、その工場倉庫を電擊し、本物の爆彈で全滅させたといふ結果になつたとすれば、やつぱりその生國だけあつて、獨逸こそはグウテンベルクの價値を最もよく知つて、この擧に出たものか。——さういへば、さきに焚書といふ前例もあつたではないか。

在りながら火災の殃は免れたが、消火の水のためにストックを駄目にしたやうなものもあり、Oxford University Press の如きは全くの重傷である。さらに相當祟られた Cassell の營業所は Ludgate Hill にあるが、當日も燒夷彈に見舞はれた。そして屋根を貫いて室内のデスクで燃え出したところを、會社自身の屋上看視當番が早速機宜の處置を執つたので、大事に至らずに濟んだといふ話がある。——この災厄の後、勿論各會社はそれぞれ適當な場所を求めて業務を再開し、業界週報には立退き所乃至新營業所のリストも細々と出てゐて、大に倫敦出版界に捲土再來の意氣あるを語つてゐる。第一 Booseller 誌そのものも、Warwick Lane の Whitaker 會社の建物にあつて、共々に燒け出されの身であるにも拘らず、爆撃にもめげずに直ちに避難先で一月二日號を出し、英國出版業の機關誌たり指導者たる實を示してゐる。

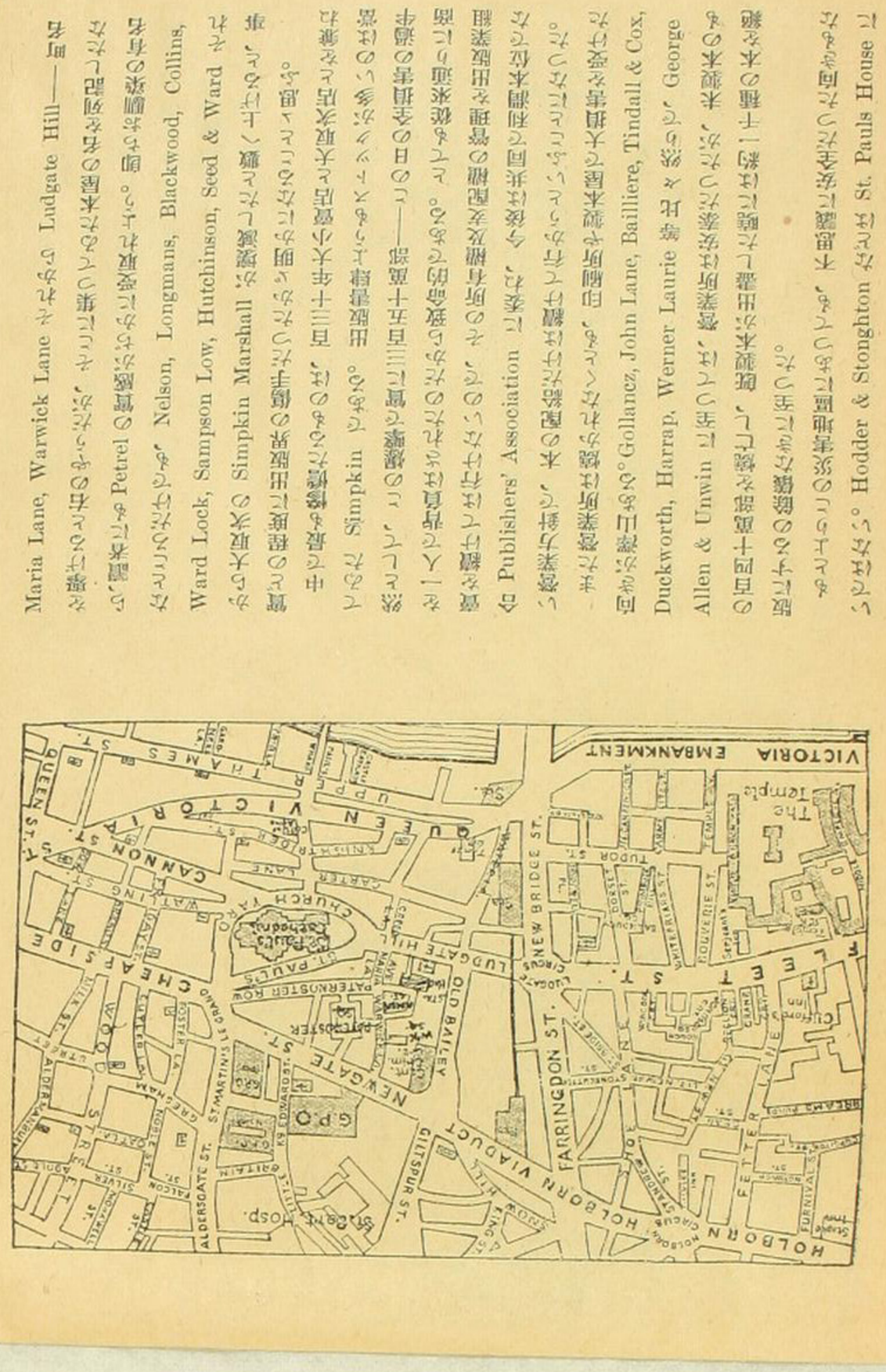
そして六百萬卷燒燼を未練がましく歎かぬのみか、これを英國出版界更生の好機會となし、出版街たる Paternoster Row の復興は勿論のことだが、今こそ書籍配給の全機構を改組すべき時だと、大に革新の叫びを上げてゐる。現行組織は丁度從來の建物と同樣に、非經濟的でもあり時世遲れでもあつた。そのボロ屋が跡方もなくなる。一册一圓づつに賣れば六百萬圓、折角の函賣物を惜しい事をしたといふ氣がされる。しかし更に按ずるに、この爆撃は、はじめから出版街を狙つたかどうか知らないが、獨逸にとつては金高でたつた六百萬圓？　の敵產を壞滅したよりも、數倍數十倍の效果を收め得たことは明かである。

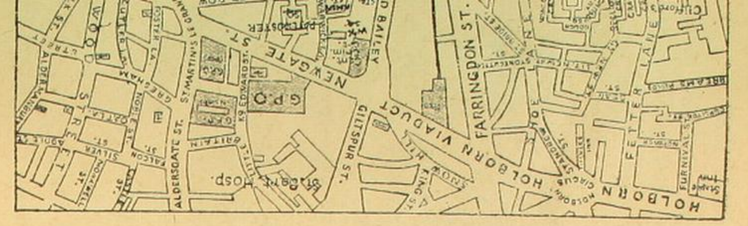
即ち六百萬册の本が世界に流出される時、それは英國文化の弘布でなくて何であらう。之を一撃の下に壞滅させたとは、流石に電撃戰の家元だけあつて手が早い。六百萬の英國製グウテンベルク爆彈が威力を發揮しないうちに、その工場倉庫を電撃し、本物の爆彈で全滅させたといふ結果になつたとすれば、やつぱりその生國だけあつて、獨逸こそはグウテンベルクの價値を最もよく知つて、この擧に出たものか。——さういへば、さきに焚書といふ前例もあつたではないか。

Maria Lane, Warwick Lane, Ludgate Hill——町名
をかゝげた Hodder & Stoughton など St. Pauls House に
ある Petrel の倉庫、不思議に災を免かれた Nelson, Longmans, Blackwood, Collins,
Ward Lock, Sampson Low, Hutchinson, Seed & Ward
や Simpkin Marshall が燒滅してしまつた。即ち燒殘の有名
出版業の倉庫の殆んどが集つてゐた一劃である。

Publishers' Association 年鑑の本年版は、今後は共同で利潤本位でなく、その所有權及支配權の管理を出版業組合に委ねるので、その方から致命的である。さても從來通りに當年の過半の全損害——この日五十萬冊——の出版書肆たちも多くの場合、自館所や貸本屋で大損害を受けたことゝ、印刷所や製本屋で大損害を受けたことゝ、營業所だけは保險に入つてゐたことゝ、本年版は殆んど出盡してゐたことゝ、來年版の本も約一千種の本を殆んど Duckworth, Harrap, Werner Laurie や George Allen & Unwin など Ludgate Hill 一帶の營業所が出盡してゐたことゝ、Hodder & Stoughton など St. Pauls House に
ある Petrel の倉庫、不思議に災を免かれた Nelson, Longmans, Blackwood, Collins,
Ward Lock, Sampson Low, Hutchinson, Seed & Ward
や Simpkin Marshall が燒滅してしまつた。即ち燒殘の有名
出版業の倉庫の殆んどが集つてゐた一劃である。

Publishers' Association 年鑑の本年版は、今後は共同で利潤本位でなく、その所有權及支配權の管理を出版業組合に委ねるので、その方から致命的である。さても從來通りに當年の過半の全損害——この日五十萬冊——の出版書肆たちも多くの場合、自館所や貸本屋で大損害を受けたことゝ、印刷所や製本屋で大損害を受けたことゝ、營業所だけは保險に入つてゐたことゝ、本年版は殆んど出盡してゐたことゝ、來年版の本も約一千種の本を殆んど Duckworth, Harrap, Werner Laurie や George Allen & Unwin など Ludgate Hill 一帶の營業所が出盡してゐたことゝ、





在りながら火災の殃は免れたが、消火の水のためにストックを駄目にしたやうなものもあり、Oxford University Press の如きは全くの重傷である。さらに相當祟られた Cassell の營業所は Ludgate Hill にあるが、當日も燒夷彈に見舞はれた。そして屋根を貫いて室内のデスクで燃え出したところを、會社自身の屋上看視當番が早速機宜の處置を執つたので、大事に至らずに濟んだといふ話がある。——この災厄の後、勿論各會社はそれぞれ適當な場所を求めて業務を再開し、業界週報には立退き所乃至新營業所のリストも細々と出てゐて、大に倫敦出版界に捲土再來の意氣あるを語つてゐる。第一 Booseller 誌そのものも、Warwick Lane の Whitaker 會社の建物にあつて、共々に燒け出されの身であるにも拘らず、爆撃にもめげずに直ちに避難先で一月二日號を出し、英國出版業の機關誌たり指導者たる實を示してゐる。

そして六百萬卷燒燼を未練がましく歎かぬのみか、これを英國出版界更生の好機會となし、出版街たる Paternoster Row の復興は勿論のことだが、今こそ書籍配給の全機構を改組すべき時だと、大に革新の叫びを上げてゐる。現行組織は丁度從來の建物と同樣に、非經濟的でもあり時世遲れでもあつた。そのボロ屋が跡方もなくなつたやうに、古い商賣振りを亡ぼして、效果的な新しき大同共力の道へ進まうといふのである。

さうなれば、この出版街の爆災も、禍轉じて福となる勘定だが、たゞ本屋の小僧として一番さきに來るのは、六百萬卷の本の山である。一册一圓づつに賣れば六百萬圓、折角の商賣物を惜しい事をしたといふ氣がされる。しかし更に按ずるに、この爆撃は、はじめから出版街を狙つたかどうか知らないが、獨逸にとつては金高でたつた六百萬圓？　の敵產を壞滅したよりも、數倍數十倍の效果を收め得たことは明かである。

即ち六百萬册の本が世界に流出される時、それは英國文化の弘布でなくて何であらう。之を一擊の下に壞滅させたとは、流石に電擊戰の家元だけあつて手が早い。六百萬の英國製グウテンベルク爆彈が威力を發揮しないうちに、その工場倉庫を電擊し、本物の爆彈で全滅させたといふ結果になつたとすれば、やつぱりその生國だけあつて、獨逸こそはグウテンベルクの價値を最もよく知つて、この擧に出たものか。——さういへば、さきに焚書といふ前例もあつたではないか。

標準製

名で共同一社を造営する者を真人（マット）その性も
あるとの説
○蝦夷の骨董の内銀盃を図つゝ
併も出し入りの候を図つゝ
大花盛　生ケ春候台
家紋のもの
皇室を下賜の御仮宰入大三但盃
和布生ケ　婦りもの　神仮宰入銀盃一個
流津子台北名大文鎮
北海道神社紀念三但銀盃
御仮宰入銀製小盃三點
李王家仮宰入小盃
銀の家杓二

が画業は決して素人ばなれのそれでない。
○北海道と信濃路の山の風景を多く描き秋山をも多く描き殊に信濃路の山水と云い信濃人物の中でも殊に女の姿を多く描いてある。
○北海道の部落がある。又それにつゞいて、アイヌの部落がある。アイヌとは日本人を称することゝして蝦夷人を指すことゝなつてゐるが、アイヌの人々もまた其の特色ある人種である。北海道からの、六曲や扇面には、アイヌと日本人とを描いてある。
○北海道の悪風俗の悪習慣を取り入れて描いてあるのは、こんな天皇さまの家を造くるのに真人（マット）を用いてあるが、

銀の小花瓶　下村家化念品
銀のコップ　二個
米国製スプーン　六個
今回帝展スプーン　二個
大隈侯爵像カフスボタン
銀製分銅　形小判
銀製亀の置物　大隈純子引渡
銀製湯鑵　同上
銀煙管巻莨入　大小二個　春城会所持
銀製酒筒　同上
銀製香筒　数点　扇形　等々
銀製連環長方形印　同会役員会記念品　無刻

精原製

銀製塔形印材　写田化念　無刻
銀像がラえ莨入巻莨盆
銀製箪笥　五個
銀製外国製細小筆（筆入）
銀製彫刻骨柱　頭用
銀製小杯子入
銀製蓋物
銀製王冠の置物　二個
銀製文房具類　小品二十点
銀製花瓶　共四個
銀製小品花瓶　内五個細刻等
銀製小盆

一銀製小墨斗
一野村宗十郎記念カフスボタン
一手つき丸盆
一大黒天像　須二
一銀製香筒一輪生花盆
一銀製香料入
一室形書鎮　馬師銀
一扇に枝の実小書鎮
一花瓶型　四個
一人物彫刻の灰皿

小川鐵相ご勉強
關門トンネルに潜る

【門司にて藤田特派員發】關鐵の關門海底隧道の輕工事はいよ〳〵來る八月には本隧道の貫通をみることになり、この貫通を前に小川鐵相は廿九日西下北九州一帶の大陸との交通施設その他を視察、關門隧道開通後に對處するため鐵相は隧道戰士等の勞苦を嘗ふるとともに

【門司發】廿九日午後四時ゴムの合羽、ゴム長靴、鐵兜といふゴム身を固めた小川鐵相(左)と案内の釘宮所長=小森江隧道入口にて=下關雲雲司令部許可濟(門司發)

得つてゐたトロッコに乘り鐵相を先頭に海底を遙多の困苦を征服、勇敢敵行で戰つてゐるトンネル男士を激勵する、ポタリ〳〵と水滴が時々首筋に入る、ところ〴〵に赤い注意札が頭をかすめ匪夢を誘く百米おきくらゐにつけた頭上の豆ランプが一直線に屆いてゐる馬蹄形の坑道をトロツコはこう〳〵と物凄い音を立てて進む、兩四斜坑で天エレベーターに乘り下關側の本隧坑にのぼると陽光はまぶしいかくて鐵相一行の關門は五十分で終つた

に感激のため卅日午後四時ゴムの雨合羽、ゴム長靴、鐵兜といふゴム身を固めた小川鐵相(左)と案内の釘宮所長=小森江隧道入口にて=下關雲雲司令部許可濟(門司發)

いたりシールドによるあと百米の地點に於ては鐵筋コンクリートの釘宮所長がセメント供人の勞苦を說明すれば鐵相は一々熱心にうなづき、關兜には右側る水滴にもおびひなく最後に兩二斜坑をも視察して望々たる關門海底の海底トンネルの偉容を感に打たれながら再び天エレベーターに乘り下關側の本隧坑にのぼると陽光はまぶしいかくて鐵相一行の關門は五十分で終つた

關門トンネル勞通

三月三十一日 門司所載

複製

早稲田大學評議員一覽

（昭和十六年三月二十七日現在　總員二百十名）

名譽教職員
市島謙吉
維持員會推擧
井上辰九郎
大谷嘉作
崎山元太郎
中川末吉
野間五造
齋藤松平
職務上有資格者
勝俣銓吉郎
高田忠夫
原田實
吉田享二

教授會選出
青柳篤恒
大濱信泉
五來欣造
堤秀夫
中村孝次
長谷川安兵衛

校友會本部選出
東清彥
石澤愛三
内田七郎治
影近清毅
田島家保
伊達元邦
野島貞平　副會長
飛崎忠之

校友會支部選出
淺川湖朗（山梨）
石黒大次郎（新潟）
天川信雄
川原田政太郎
末高信
中谷博
長場正利
山岸光宣
井上忠之助
磯部愉一郎
緒方竹虎
黒田善太郎
高廣三郎
中川信行
原安三郎
吉田秀人
飯塚知信（臺灣）
石丸英一（長崎）
井上廣居（秋田）
石原善三郎（參考）

（三名）
小林久平
（二十七名）
五十嵐力
大橋誠一
鈴木茂雄
中村房次郎
早川總次
山田英太郎
（十七名）
北澤新次郎
寺尾元彥
日高只一
吉村鐵彥
（二十八名）
赤松保羅
沖巖
島田孝一
外岡茂十郎
永井一孝
增田綱
（三十九名）
新井章治
石谷傳兵衛
飯生卓爾
菅野健吉
高橋誠三
郡司義勝
久治郎
正木正家
（九十六名）
井上要（警醒）
石田愛封（北海道）
小栗捨藏
小林新
高杉瀧藏
中村宗雄
野村猛
石川登喜治
久保田明光
関與三郎
中野登美雄
西村眞次
石川勝治
市川鑒蒲
荻野元太郎
田内眞能
武部數馬
野口保元
深澤政介
池上長太郎（岡山）
稻村一平（業）
内崎作三郎
花藤功一
坪谷善四郎
難波理一郎
松平康國
杉森孝次郎
林榮
遊佐慶夫
澤田和民
小山松壽一
田中穗積
永井柳太郎
增田義一
塩澤昌貞
服部文四郎
山本忠興
小林行昌
内藤多仲
山内弘

○まくら一冊本を集めたもの十数年前の事ゆえ
いづれのを写すを集めを一冊とは何ぞ
なお其の目録を左に写す。

、海内名家書帖
、吟香軒法国画帖
、もゝまくら集 一冊
、西京瓦談
、京都名所の記
錦嚢卯木 複製 二部
潮南漁鈔
大崎観楓絶句 折本
江戸錦絵等中枕絵二
九十春詞 折本
根津竹枝 同上

横原蔵

、未片舟迹
、元島川
、新吉野句冊
、伊勢初詣記
、名人ぜうへ 写本
、仏説摩訶阿弥陀経 写本 折本二
、燈代記
、江戸浅川録
、あれから住 五枚
、責心住二枚
、誰ゝ神
、美人 写本 折本
、書道微塵之集 後住
、足利学校見学記 写本 折本
、新刻百銭譜
、孟子 断簡 天明八年大地震記念
、菓子名寄
、錦絵譜
、桂山俳諧集 会冊
、木間塾詩歌集 自筆
、仙果自筆歌集
、懐古双剣足 折本
、名所重要海道 結冊
、歌舞伎美人絵 極模
、ゴロイン、コメデー 新版

弐飾并假花略記 折本

・東嶺山古田、

織革冰霜

・脳内経一巻 ㊟

別冊ハ 春乱寺大谷家の伝来ニ係ル

聖武天皇百筆経ノ納メラル 法華経 十巻

注釈教ノ錦書師林ノ筆本二帖

セーラスピヤ三巻本ノ全葉ヲ

光悦白物 ㊟ 本ノ複製ヲ

家ヨリ三部ノ注釈ヲ

豆本大冊ノ字書七八種

複原製

弐飾并假花略記 折本

・東嶺山古田、

織革冰霜

・脳内経一巻 ㊟

別冊ハ 春乱寺大谷家の伝来ニ係ル

聖武天皇百筆経ノ納メラル 法華経 十巻

注釈教ノ錦書師林ノ筆本二帖

セーラスピヤ三巻本ノ全葉ヲ

光悦白物 ㊟ 本ノ複製ヲ

家ヨリ三部ノ注釈ヲ

豆本大冊ノ字書七八種

複原製

矢根五一面

御拘留装束着用仏像 木附獅像入物置棚

牙の厨子入仏像

四角四米塗三寸壮厳仏像

鐘かくし入仏像 一カンナの根は

松明を以て作れる香匣

上虎箱

高三尺小骨董を今数しても全く之を今置し気遣やし 四月三日か

○狐退のバルカンに對する外交着々成を奏し、ルーマニヤバルカン三回の同盟を在り四年超動を加へ、ユーゴー、スラビヤをも誘ひて両即もむしろのを妨害を計つた為、金と狐と開戦をするに至つた狐の三大強国となり、狐と取つてもつ者交戦の日実が起つて、狐の両心をんであらう、ユーゴーは狐の大きを同公が、世界大戦の後方をバルカンの他の狐国を全割をせ当を本位の国であるから民俗が混合して一時統治統を記録する国をとり此の為、甚だ呼いまくかれるが故を以てユーゴー、スラビヤと改めた狐である、今バルカンの他の三四国即ちユーゴーを取りまく狐側の狐と枢軸の狐の国ひいざ義をとる狐の味方とをべきであるのん、ユーゴーは何を頼んで寝返りを打つたのであらうか 狐民族の両と狐系が少ない為、再破統の一番国であらうが、莫斯の暗中飛躍がユーゴーをそのかして見事ラビヤを倒すに至つた。

物の英国上陸を阻止しようとするばかりか、戦闘を行うことで、一時なりとも方向を転換を企てるおそれがあり、米国の援助が期待の時までの役立てる為めに、宣戦布告をしないまま、英国に味方する為めに英国が立ち直るのも北欧が基の利を国としてるものである。エゼ帝も実の物の電撃に過ぎないことは軍事家の一致する所であり、物は伊伯和等を征服したものの兵力は寡ち戦前とも信じて居ることであり、バルカン注意をの為めを保つ為に貧弱な不足を補うべく、エゼ帝と戦うて具つ英の上陸作戦自をするまでの時がかかるとの見方がある。エゼーの敗戦も近いであろう、北欧全体の安衛である。けんども、到底物の敵ではない。エゼ帝の敗戦のエゴーとエゼ侵略を停止し、英国の援助のもとに物の軍動を阻止するまでは。

（四月七日記）

横原製

の無血上陸に次ぐ馬の大人気代〃木々作家の馬を訪ねるであろうと思われる事を述べたのは昨日の事であるが、更に今日は馬の持物である。

のろ人の心をはかりしる駒にはあらねども

いとしくも我が飼う馬の元気なりけり

馬は神話のある所歌にも詠まれ大切な道具であり軍事上も大切なものである。馬の路役を定めた九位の日本の国宝として単馬の数を決めたのである。

それ昔一官名に馬良を国名に馬飼あり、左馬の允を定めたのも一例である。

石馬敢

但馬

山中を乗て帰るべし。

ある人が乗馬をすゝめ侍りければ

乗馬は人の命をたすくるわざ也。名馬は鞍置を見て乗べきぞ。鞍を置ることを知らざる馬は鞍もスパールも不安心也。

馬の鞍置て乗ざる時は

馬の鞍置て乗の事ありがたき千徳の歌

とあるのが其の実証也

馬ならば人の心持をもつべきぞ。徒て馬が人を試ることあり。騎ん術の

湾のごとく人を乗たをさめ騎ざる馬を観察すべし。ことにあら馬の気質の

かくるの者し房州の●産(来)従し此頃の。徒ら他の人馬をすゝめられ労つて性

験を有しもの、駿馬て三日間乗つぶし候。最初のはりサンくる馬を観察

これが其の馬は鞍の手は鞍置の●を休めて活動悪つてあるの両人のを無難に

横原製

九洲で大谷川は本で○三人松と自称してる。石黒の「多珠多分」のかを
刻して頭つ(1)れとる極流が勢(1)てある。人一日信馬び郊外を出る
(ん)が午をる)を食事が出来ます。多義で合ますをする様なる。
つんの(1)、部おの委(1)風を想(1)像(1)のあ(1)が馬(1)(ん)(1)定(1)の脚(1)と耐(1)
今日本八隊を耐(1)く(1)馬(1)と(1)と(1)と

馬を亂すの文章はと考ふるに唯此頃よく經驗する處なり
なれば駑馬十駕云々と曲亭馬琴の弓張月、鵜を置くの二文をもて
餘も亦馬琴の文體學ばんとの志ありしかば
の自分の鈴を首掛くるとも馬鹿と言はれ自心を駑馬と定め共に後進の

家で養、良馬をものにな、女の為能を回なば、やぐさのあ供を清山猫つうも
そうこん家をおすることがあり、飼育のご苦情から人馬一如とするる無記な
る事である。

満馬は汽車の形容に出でんとあり。

潮騒里樹千鶏鳴、熱蹄又踏馬の海の活ん
饑夫無馬奈、馬奈を追接万駅路人日暮河
無馬の形容に出でんとあり。

馬の用途で昔を偲ばれ近世の人々の奉仕しれ人である、昔の木馬と神馬と一緒に
(予も来れ馬の恩恵を行かねばならぬ。)

複原製

馬小と野獣であるが、猫の人間を愛するが如く家畜である。犬馬
まれ心家畜と成り切るが、犬も馬と同じく人間の言葉を合点するものがあり、
ことあるドンナまでも重量を挽ぬ事を厭わず一運ぶことは勿
論軍馬となると人の為に死ぬまで忠勤を尽す。北亜
西亜の遊牧民族が神話を画とり、兵家の人馬一如が我
等を行わ、一如とすることが、飼養や御者の如く、人獣一如と
する説あれ、馬が其の主なる家族の一員として馬を
数えるのは各地である。往々剣悍の馬も騎手に法を以てすれば、
よく従うものである。馬の大きさで国力の大きさを
みれば大切な機関であることは勿論、農家に於ても、馬の存在
一家として数えるべきである。村の農家の有する馬は大体富裕の

○十年程前に出版された神田文化史を読んで見ると、北人の中川儀右衛門という人が、和唐紙の創始者として特記されて和唐紙の創始者とも称すべき人がもと山城の人で朝山意林庵という人が、支化三年の頃、作十間横五間の紙を漉き奏呈紙と称せられたが、これが和唐紙ではなかろうか。自分のところにも四方の紙を作られたが大幅の紙のレコードとして保存して置いたが、これが二間半が一間の紙がレコード破りも甚しいものだ。唯十間の紙を作ったということであるが、実際は(疑問)ほどしかない。レコードとする資格でもある。実際十間の紙を作ったとしても、それを用いられるかどうかは疑問である。ガランとした座の真中に、ポツンと大きな紙を広げられるかどうかも疑問である。宮崎県の延岡の傍に祝瀬という所があって、ここの紙も(疑問)も載ったことがある。北人の千代吉という人の紙を集めたとして注目を引いたことがある。

(榛原製)

り又撫養の石油を精製したものを奥羽の方へ送ったが、悪臭を放つので奥羽の人々は石油というと、悪臭を放つものと思い込んでいるから、燈油の売れ口が少ないので、ここから石油を取寄せて、これを精製して売出したところが、非常に売れ口が多くなったので、早速石油を取寄せて精製して売出すことにしたが、北人は、神田文化史の中に六七頁を割いて記載されている。北人もと紙商の人であるから、紙業に関しては、非常に詳しい。北人の祖先は、越後行脚の途中、ここに来て、紙業を始めたとかいうことである。

北人は、紙の原料は、楮、三椏、雁皮の三種であるから、楮の多い地方を選んで、紙業を営むのが、最も有利であるとして、楮の多い地方を探して歩いたが、楮の多い地方は、紙業が盛んで、紙の値段が安いから、紙業を営むのは、不利であるとして、楮の少ない地方を選んで、紙業を営むのが、最も有利であるとして、楮の少ない地方を探して歩いたが、楮の少ない地方は、紙業が振わないから、紙の値段が高いから、紙業を営むのは、不利であるとして、楮の多い地方を探して歩いたが、楮の多い地方は、紙業が盛んで、紙の値段が安いから、紙業を営むのは、不

人々働くらんぬれば北斗の指ふことも

縮原製

No.

山陽遺稿　階安　雪心窗夜入閒　七賢六覺

何事　撲撲勤君不得閑

山陽賴　久太郎

No.

滿架籠春月　花窓統都無　滿眼只糊糢糊

鴨生賴　再享

不雪還不雪

和文家の文故ナくまた左の二例を注一分の意思ろう取ら上

山陽と時君の詩悟の一章　重ね雪ま共注若ろ

除夜

かきつばた
庭の紅葉
きくとなき
杉のこゑ
久澄

かきまぜて誰こそ見えね雪の
底の紅葉をいかでひろはむ

きてとへば答へぬ山のかつ越山の
松のこずゑをふく夜半の風

久澄

○田今が大切な保存をお願い我うち島の宝家秋の氏の住居、その保存の為本を集今ら後んなことをもうろんが、北陸地を始めも数億して元々、田谷の平壮な代の芸芸の品が無をうしめものがあつれることをかつて大いな感激しとの田なをもつ五の町の歌人そしておも芸芸のいるさえかり二冊も出刷されておるが人いまく北人の歌い帝豪のまでみれと転々と転送してあるがしかし秋家が政治の家としてのかも、北人の力役山田のかも、力役と云う歌る賤業に身を委ねたものが、いろくのものを指つて、短歌を長く続けて、相の歌人を敬と云う意味で、北陸地方の歌人を集めて、歌会を開くのが常例であり、いろくの物を

一 朋盍手柬　乾　伸　二冊
一 雙魚堂鷁肋　仝　二冊
一 市島春城選集（第二巻）回顧録　一冊

右ノ圖書御寄贈相成正ニ領收御厚意奉謝候
永ク本館ニ保存シ閲覽爲致可申候　敬具

昭和十六年四月十八日

市島謙吉殿

早稲田大學圖書館

複原製

家蔵之記録の書簡弐千通あまり
アルバムの一冊 原本書画要と標題を附したるもの二巻と学友の手簡
往復書簡 他の書簡の記録をとるまでのもの、家庭の日記
依託せる多数のもの、故郷への旅行通信の控えしもの
期日 一四月二十日 設立発企者 三浦悟一 平田徳衛
久保美雲堂 田辺 碧堂 大仏次郎 前島春村
牧野通次郎 鈴井為八 徳川頼倫
金沢の雅 四井元顕 木下源大郎 田中一貞 田中一宇
角田真平 根岸武香 村山知雅 入沢達吉 犬養毅
高士明治 今泉雄作 大槻如電 小野 三村井清
陳列の順序 野口米次郎 高橋義彦 岡田三郎助

中島久萬吉 大口鯛二 高木貞衛
松山高吉 杉山令吉 小川為次郎 天岸生 高田早苗 尾崎行雄
寺本松雅 徳富蘇峰 長与又郎 大隈信常 田中義成
和田垣謙三 和田萬吉 南条武次郎 松本孝一
田中穂積 田中館愛橘 福島甲子二郎 新村出
板口五郎 野口米次郎 石田良平 服部恵次郎 小川泰次郎
阿部浩 井上円了 今泉八一 内田魯庵 上野理一等
○ 余が大隈侯の晩年 閥の打破 排外思想の鼓吹 大隈城壁の大石を見て 建碑の議 を聞くや 直ちに賛意を表し 建碑委員 の一人に加えられ 爾来 今日に至るまで 種々の事柄 について 侯と会合し 意見を交換したることが 尠くない。

任の一半はあり、陛下に申譯無い事である。要は國民の責をよくし、吾々の一票〳〵に忠君愛國の至情をこめ、兵隊が銃劍に大和魂を漲へて一死奉公の赤誠を捧げる態度にあらねばならない。

外交の方面も日獨伊同盟に依頼して安心してはいけない、之で却つて蘇聯との關係は惡くなり、英米の援蔣行爲は止む所か却つて露骨になつた。此の次日米戰爭でも起れば相手は物資と財力にまかせて戰爭は長くならう。そこへ蘇聯でも出て來れば容易ならぬ事である。恃みとするは天にも地にも己だけである。追隨主義に陷る事なく、大きな事ばかり云はず、上辷りせず、深く心の奥に思を致し、營々として國力を養ひ、非常時だとて倒になつて歩く樣な事をしても長續きはしない、平凡の道を心深く、百姓も商人もぐら〳〵まごつかず落ついて力一ぱい職域に奉公し、共に　陛下の赤子として人を亂臣賊子呼ばはりせず、互に信じ互に思ひやり和やかに強い決心でこの重大な時局を突破すべきである。（完）

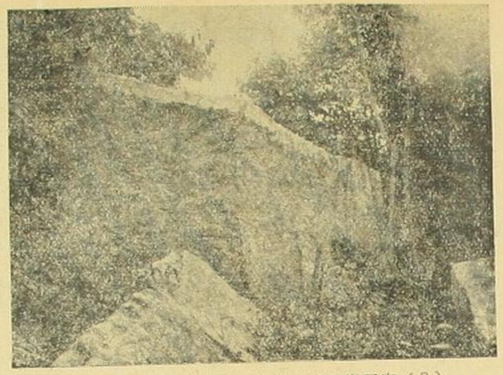
香川縣小豆郡
安田村岩ヶ谷

大阪城用殘石所在史蹟調査ノ概況

調査部兼鄕土博物館主事　岡田唯吉

天正十一年（二二四三年正親町天皇）豐臣秀吉は天下一統の後其鎭府たる大阪城を、築くに當り、其石材の多くは、當小豆島より徵した、即加藤清正、片桐且元は、黑田孝高等採石の奉行として來島、加藤氏は土庄筑井氏に屯して西部を監し、片桐氏は草壁の菅氏に屯して、東部を、黑田氏は北浦三宅氏に屯して、北部を監したやうである。

次で慶長四年（二二五九年後陽成天皇）豐臣秀頼は、此大阪城副築に際しても、亦本島に石材を徵したが、德川氏の世に至りて亦此城を關西の要城鎭府と定めてから、元和六年（二二八〇年後水尾天皇）秀忠將軍が關西の大名三十一ヶ國、四十八家に課役して、石垣を修築し、家光將軍寬永元年（二二八四年後水尾天皇）同五年（二二八八年後水尾天皇）の修築及同六年の補修工事を合せ、實に前後五十年間にわたる、再三の工事により、始めて大成したのであるが、凡そ石材の礫格巨大なるは、實に全國第一と稱せられて居る。斯く、豐臣氏の時既に大石を集めて之を築き後德川氏の威力と



（3）安田岩ヶ谷大阪築城殘石中豆腐石丁場殘石ノ一

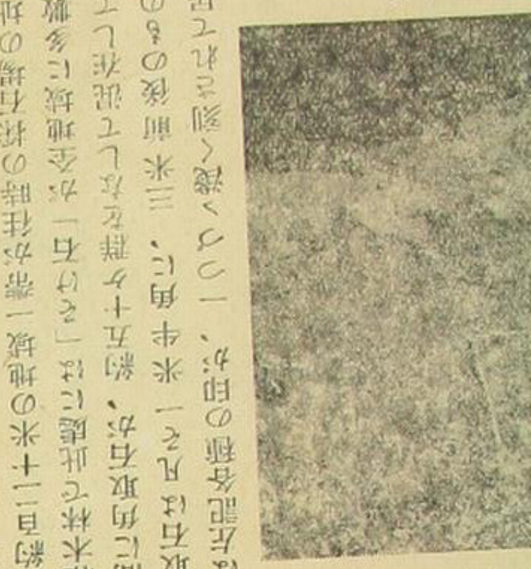
之を監した。小豆島風土記によれば明和九年（二二四三年後桃園、寶治）野村彦右衞門在役中殘石を改めたるに岩ケ谷龜崎、八人石、とうふ石と三ヶ所に切出の石六百五十四あつた、云々石石番の者に彦太郎、七兵衞と云兩人に築前侯より扶持を與へられ毎年六阪御倉屋敷で受けたものである文久三年（二二五三年孝明家茂）御用石員數寸尺改帳によれば其數六百五十四あつた、中々嚴しく保存されたやうであるが、明治維新後或は工部省所管或は陸軍省の主管となり、明治十五年終に之を解放して今日に至つた。岩ケ谷殘存の石丁場は、天狗石丁場、南谷丁場、豆腐石丁場、龜崎丁場、八人石丁場の五ケ所ありて其總面積約五町歩に達して居る。

一、（天狗石丁場）圖二（以下は大町氏研究調査による

高さ十七米、胴廻り三十五米なる天狗岩と稱する大花崗岩を中心とする半徑約百二十米の地域一帶が往時の採石場の址山中は櫟、松、雜木林で此處には「そけ石」が全地域に多數存し更に其等の間に角取石が、約五十ケ群をなして混在して居る。此等の角取石は凡そ一米半角に、三米前後のもので、其切小口には左記各種の印が、一つづゝ淺く刻されて居るが、中に異種の紋を二つづゝ並べ刻入したるもの、◎ ○ □ ◪ ⊗ // 弐 ㄱ も可なり多くある。

就中、高さ四米餘、表面約六米平方の平面を有する碁盤石と稱するものには、其上面に◎ ○ ◪ □等七種の印が、刻まれて

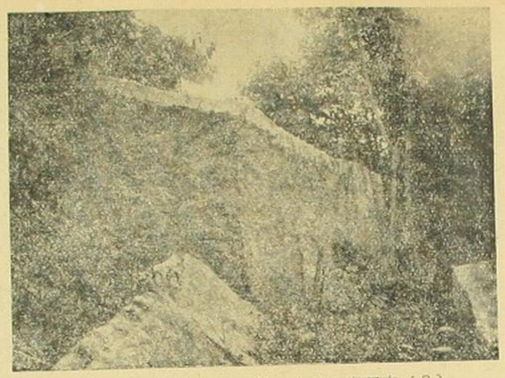
（4）天狗岩丁場ノ殘石刻紋



の緑をこつくつ
並べ刻天したる
ものが、中に異種
で、共切口には左記各種の印が、一つづつ浅く刻されて居
る。仏等の角取石は凡そ一米半角に、三米前後のもの
居る。仏等の間に角取石が、約五十ヶ群をなして散在して
仕し更に共等の間に角取石が、約五十ヶ群をなして散在して
山中は櫟、松、雑木林で此處には「さけ石」が全地域に多数
を中心とする半径約百二十米の地域一帯が往時の採石場の址
高さ十七米、胴廻り三十五米なる天狗岩と称する大花崗岩

一、（天狗石丁場）同二以下は大町氏研究調査による。

第二、昭和○年○月○日、七版印刷、○○○



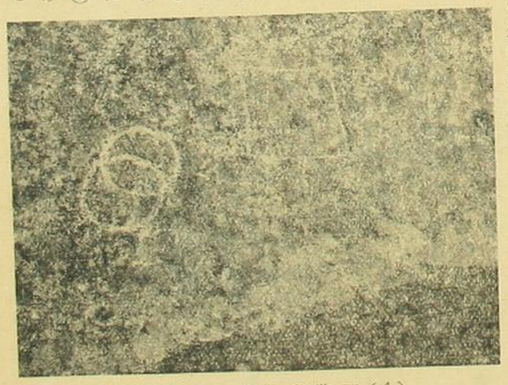
（3）安田岩ヶ谷大阪築城殘石中豆腐石丁場殘石ノ一

之を監した。小豆島風土記によれば明和九年（二四三二年）後桃園、寛政）野村彦右衛門在役中殘石を改めたるに岩ケ谷龜崎、八人石、とうふ石と三ケ所に切出の石六百五十四あつた、云々石石番の者に彦太郎、七兵衛と云兩人に築前侯より扶持を與へられ毎年六阪御倉屋敷で受けたものである文久三年（二五三年孝明）家茂）御用石員數寸尺改帳によれば其數六百五十四あつた、中々嚴しく保存されたやうであるが、明治維新後或は工部省所管或は陸軍省の主管となり、明治十五年終に之を解放して今日に至つた。岩ケ谷殘存の石丁場は、天狗石丁場、南谷丁場、豆腐石丁場、龜崎丁場、八人石丁場の五ケ所ありて其總面積約五町歩に達して居る。

一、〔天狗石丁場〕圖二―以下は大町氏研究調査による

高さ十七米、胴廻り三十五米なる天狗岩と稱する大花崗岩を中心とする半徑約百二十米の地域一帶が往時の採石場の址山中は櫟、松、雜木林で此處には「そけ石」が全地域に多數存し更に其等の間に角取石が、約五十ケ群をなして混在して居る。此等の角取石は凡そ一米半角に、三米前後のもので、其切小口には左記各種の印が、一つづゝ淺く刻されて居るが、中に異種の紋を二つづゝ並べ刻入したるもの、◎ ○ □ ⊠ ⊛ // 弐 ㄱも可なり多くある。

就中、高さ四米餘、表面約六米平方の平面を有する碁盤石と稱するものには、其上面に◎ ○ ⊠ □等七種の印が、刻まれて



（4）天狗岩丁場ノ殘石刻紋

第五、風景の宝 [illegible] て質問 [illegible] 下さい、
出處はそう云ふ書類より [illegible] 人

で、此光景が實現できるやうに、一住町小瀬、北浦村、安田村等一大井觀を三百年後の今日に殘すことに熱心な諸氏に切望する。安田村の岩ケ谷を區して、他の各地域に於ても亦同樣の保存に關心を持つことを切望する。

楊原製

任の一半はあり、陛下に申譯無い事である。要は國民の誠をよくし、吾々の一票〳〵に忠君愛國の至情をこめ、兵隊が

居るのもある。

二、南谷丁場

畑中に長方形の角取石のみ、二十五個集り存し、其大さは約一米半角に長さ二米乃至三米位である此處の石には總て㊦の印が一ケづゝ刻されて居る。

三、豆腐石丁場（三圖）

此丁場跡の殘石は角取石、そけ石、種石等大小合して總數約百五十個で其等のものが、雜然と入り亂れて殘存するのは正に一偉觀である。此區域の角取石中には一ケの石の切小口に「□┐○」「○⊠㊦」「⊠○㊦」等の如く三ケ乃至四ケづゝの、異種の刻印あるものが多い。右の中、角取石は約三十個許りであるが其中の最大なるもの二個は共に約二米角に、長さ五米餘の大さを有する、宛かも長方形の豆腐型のもので、之は往時の城壁の角石用に伐り出されたものの、殘餘であるものと思はれる。

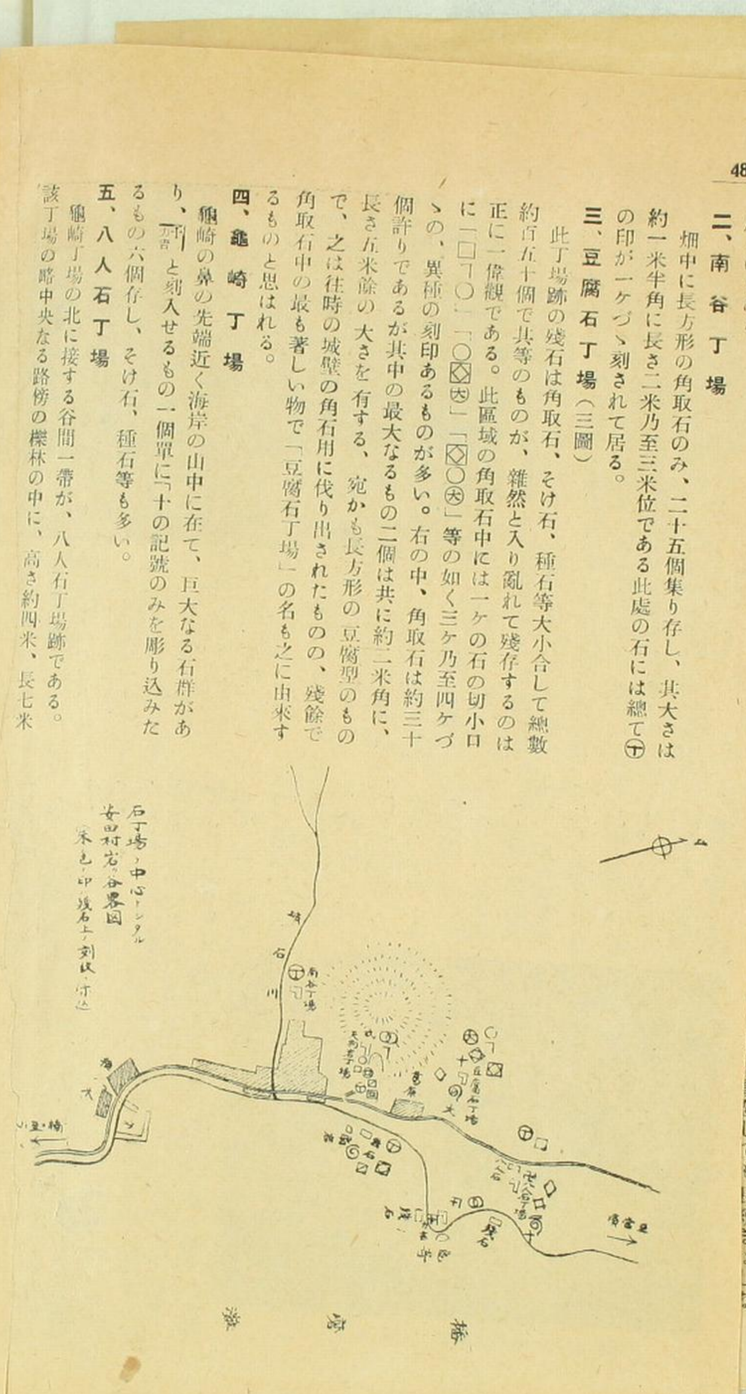
四、龜崎丁場

龜崎の鼻の先端近く海岸の山中に在て、巨大なる石垣があり、「[illegible]」と刻入せるもの一個單に「十の記號のみを彫り込みたるもの六個存し、そけ石、種石等も多い。

五、八人石丁場

龜崎丁場の北に接する谷間一帶が、八人石丁場跡である。該丁場の略中央なる路傍の樫林の中に、高さ約四米、長七米に近い亘石が立ち、其下端に接して往時割り取られた、其半分が截面を地上に露出して倒れて居る。

採石の時、割取つた大石の下で、一時に八夫八人が壓死したと傳へられて居る爲、此大石を八人石丁場と呼び今尚昔の哀話を殘して居る。



長方形の角取石は、凡そ四十個散在し、更に鎬穴の存する巨大なる種石、そけ石等も、數十個散亂して居る、而して該丁場跡の殘石刻紋は㊦□※//?◇∞である。（完）

株式会社 標準製

標原製

日ソ條約・折衝の苦心

スターリン氏決斷の素速さ

車中に語る松岡外相

務總領大施布

【海拉爾本社特電廿日布施大毎總務發】 臨時列車が外相の一行を乘せて滿洲國に向ふ、午前四時半、廳舍車に外相を訪ふ、外相曰く

今度の訪蘇は獨、伊の巨頭と親しく交驩するのが主要な目的であつたが、往路も國境もソ聯を通過するとなりその間色々便宜を與へてくれたのでその挨拶かたゞ〳〵クレムリンの巨頭らと會つたのだが、それがきつかけでプログラムになかつた中立條約締結といふいはゞ拾ひ物をしたのである、スターリン氏との談判は極めて簡單なものであつた、僅か正味四十分間、しかもその中の廿分は自分がいふだけのことをいひ、あと十分間でスターリン氏は『ハラショー（よろしい）』の一言での條約の最後的斷案を下したものである、スターリン氏の決斷の素早さには驚いたよ

これだけ聞くと中立條約は極めて手輕に出來たやうに思へるがしかしあゝした重大な國際條約がどうしてかやうに無造作に出來よう、折衝の裏面に色々の苦心がある、大いに松岡外交の

機微を發揮したものであることはいふまでもない、私は外相の片言隻語において、また交渉そのものゝ態度において色々つかむことが出來たのである、松岡外交の最大苦心は往路と歸途モスクワ立寄りの二度の機會の斑みな使ひ分けにあつたと思ふ、往路のは八紘一宇の旗幟からきり出し『伊藤、住岡公の親露政策を繼承したものは後藤伯である、しかしといつた風に世有余年東亞永遠の平和確保の最大條件は日露關係の間の正しき理解がなければならぬと、信念を一貫して來た由來を述べ、クレムリンにてこの松岡に信をおくなるべし、歸途の會見にまた立寄つて話すから』と出たらしい、このあたり松岡外交の觀點ともいふべく果して國運立ち帶つて見るとちやんと腹案が出來てゐるではないか、しかしスターリン書記長の持出した最初の案がくつついてゐなかつたか、出來上つた條約があの通り一片の政治的文書に過ぎないものであつたか、何か別個の條項が附隨的に附つてゐるところを見るときうした附帶的なものは寄與

駈引なしの外交

スターリン氏は談判の眞つ最中『まだかつて貴下のごとき駈引知らずの正眞者に會つたことがない』といつたので『貴下もまた同じだ、そして正眞者といへばもう一人ゐる、それは佳川大使だ』と答へておいた、佳川大使のあのざつくばらんなところは大いに受けてゐるよ、今度の條約成立についても大使の功績は頗大だ

と部下を賞めるのは外相の持ち前である、車窓はやうやく白みがかつて來た、外相はまた〳〵嬉しさになる、曰く

十二日晨朝を終るとその室で事務机をそのまゝ食卓にしてスターリン書記長自ら椅子の配置を直す、自分も手傳ふといつたやうな手輕さ、少しも形式ばらぬところには感心させられたし、スターリン氏は最初チナンダアリ酒をちびり〳〵やつてゐたが、中途でシャンパンの盃を擧げて天皇陛下の萬歳を奉唱するといふから、それなら何度でもやらうと乾盃した、スターリン氏がちよつと席をはづしたのち汽車の時間を氣にしてはどうかといふので、自分は隨員たちからダイヤを狂はすことは不實既だと答へたが、結局一時間おくらせた、さて歸へ行くとあとから追ひかけるやうにスターリン氏が現れた、何かの

松岡外相・スターリン氏と握手（十三日・モスクワ）

ゼスチュアのやうに『ソ聯は日本と戰ふ意思は毛頭ない』といふことを述べ出して來たものである、そのスターリン氏は私のことを『大分白髪が增えて來たが』と言つたのがこのごろは？と聞くと

の苦心
の素速さ
松岡外相

さつぱりと切取つてしまつたと見なければならぬ、それに三日間靈岸を延期したもののプラリとレニングラードに遊びに行き、もうこれ以上は一日も延ばせぬと云ふみにクレムリンを焦らせたあたり松岡外相中々魂におけない、モロトフ百外相に打つた電文のうち〝貴下の積極的協力の賜物だ〟とあるが妙な賛め方である、それにつけても次の外相談は興味をそゝるものである、外相曰く

駈引なしの外交

スターリン氏は調判の運ぶ最中「まだかつて貴下のごとき駈引知らずの正直者に會つたことがない」といつたので「貴下もまた同じだ、そして正直者といへばもう一人ある、それは鎌川大使だ」と答へておいた、鎌川大使のあのざつくばらんなところは大いに受けてゐるよ、今度の條約成立についても大使の功績は亞大だ

と部下を賞めるのは外相の持ち前である、車窓はうやく白みがかつて來た、外相はますく〳〵元気になる、曰く

十三日調印を終るとその室で晩餐会にしてスターリン書記長自ら盃すの配置を指す、自分も手傳ふといつたやうな手輕さ、少しも厄介ばらぬところには感じさせられたし、スターリン氏は最初チナンダアリ酒をちびり〳〵とやつてゐたが、中途でシャンパンの盃を擧げて

天皇陛下の萬歳を奉唱するといふから、それなら何度でもやらうと乾盃した、スターリン氏がちよつと座をはづしたのち汽車の時間を延ばしてはどうかといふので、自分は獨逸人だつたからダイヤを登はすことは不賛成だと答へたが、結局一時間おくらせた、さて歸へ行くとあとから追ひかけるやうにスターリン氏が現れた、何かの間の關係に水を差すやうなことがあつては大變である、しかも國際關係には裏表がある、いろ〳〵デリケートな點が多い、相大のやうに見えてあれで中々細心な松岡外相は、この點帝に纖細な神經を働かせたらしい、ベルリン、ローマが聲を揃へて日ソ新條約の成立を讃歎したのは當然のことである

行く所必ず長廣舌

かくして歐洲國際外交の檜舞台における松岡外相は行くところ必ずあの長廣舌を揮ひヒットラー、ムッソリーニ、スターリン各巨頭と會つた場合でも相手に三分の一、ときには四分の一しかしやべらせなかつた、松岡の面目躍如たりといふのほかない、ヒ總統官邸のバルコニーから總統と並んでの群衆への挨拶、スターリン、モロトフ兩氏の條約調印後の招宴などその最も壯觀な場面であつたとすべく、いつの間にかナチス式の敬禮をまねたり、ロシヤ式にスターリン氏と肩を組合つたり、愛嬌たつぷりなところもあれば心臓の大きさを見るところでパレードした、その半面車中や旅舍でも枕頭になき母堂の冥福を祈り、またベルリンから伊中の守護をぬすんでゾルフ大使の未亡人を訪ねて人間松岡ぶりを遺憾なく發揮するなどの場面もあつた、但しなんといつても今日の歐洲を動かして行く巨頭等と肝膽相照し親友としての交誼を結ぶを得たことは外相今回の外遊における何よりの收穫であつたといふべく、『俺は男と男の話し合ひをして來た』

これが車中外相の記者に語つた最後の言葉であつた、國際車で差し向ひの懇話を終へたときはもう夜が明けてゐた、かくて列車は午前七時四十分各方面の歡迎の大歡迎の中を高岡駅に到着した

松岡外相・スターリン氏と別れの握手
（十三日・モスクワ北停車場にて）ベルリン無線電送

縮原製

東京日日新聞　（明治二十五年三月八日第三種郵便物認可）　（刊創年五治明）　（月曜日）

日ソ中立條約成立す

松岡外相モスクワで調印

日ソ中立條約は十三日午後三時（日本時間午後九時）ソ聯首都モスクワ、クレムリン宮においてわが松岡外相とモロトフ・ソ聯外相との間に調印を終了、こゝに懸案の日ソ間の國交調整は具體的形をとつてその第一歩を踏み出すに至つた、

即ち去る廿四日訪ソの途次モスクワに立寄つた松岡外相はスターリン・ソ聯書記長と初會見して以來、スターリン書記長と會談二回、モロトフ外相と會見すること前後五回、日ソ兩國の國交調整の線に沿つて意見の交換を行つてゐたが、十二日午後五時松岡外相とスターリン書記長との最後會談二時間によつて急轉安定への道を急き松岡外相モスクワ出發當日の十三日朝發の日ソ條約の調印となつたものである、しかして本條約の成立により帝國外交は不動の基調たる日獨伊三國同盟を根幹として更に北方面においても同調國を加へ世界新秩序建設に向つて樞軸陣營の力強い歩みを續けることになつた、右につき帝國政府は十三日午後十一時情報局より別項の如く近衛首相談及び情報局總裁談を公表した

【モスクワ本社特電十三日前芝特派員發】日ソ中立條約は十三日午後三時（日本時間午後九時）モスクワにおいて締結調印された

紛爭中は絶對に中立
滿洲、外蒙も領土尊重

年五間期

【情報局發表】帝國代表松岡外務大臣及び建川大使並にソヴィエト聯邦代表モロトフ人民委員會議議長兼外務人民委員は四月十三日午後三時（モスクワ時間）モスクワに於て日ソ間中立條約に調印せるが其の要旨左記の如し

日本國及ソヴィエト聯邦間中立條約要旨

大日本帝國及ソヴィエト聯邦は兩國間の平和及友好の關係を鞏固ならしむるの希望に促され中立條約を締結することに決し左の如く協定せり

第一條　兩締約國は兩國間に平和及友好の關係を維持し且相互に他方締約國の領土の保全及不可侵を尊重すべきことを約す

第二條　締約國の一方が一又は二以上の第三國よりの軍事行動の對象となる場合には他方締約國は該紛爭の全期間中中立を守るべし

第三條　本條約は兩締約國に於て其の批准を了したる日より實施せらるべく且五年の期間滿了の一年前に本條約の廢棄を通告せざるときは本條約は次の五年間自動的に延長せられたるものと認めらるべし

第四條　本條約は成るべく速に批准せらるべし、批准書の交換は東京において成るべく速に行はるべし

なほ右調印と同時に兩國政府は左記宣言の發表を行ひたり

大日本帝國政府及ソヴィエト聯邦政府は兩國間に締結せられたる中立條約の精神に基き兩國間の平和及友好關係を保障するため大日本帝國は蒙古人民共和國の領土の保全及不可侵を尊重しソヴィエト聯邦は滿洲帝國の領土の保全及不可侵を尊重す

國が永續的基礎の上に平和及び友好の關係を確立することに努め、もつて上記國際條約の精神を具現化することが必要欠くべからざることはいふまでもないところである、政府はこの信念に基つきソ聯邦との間の關係を根本的に調整せんがためかねてより交渉を重ねつゝあつたのであるがこの度松岡外相のモスクワ訪問を機として双方の話合發展を見こゝに松岡外相、建川大使及びモロトフ・ソ聯外務人民委員間に四月十三日をもつて別に調印した如き中立

つたのである

本條約が日ソ國交上劃期的意義を有することは勿論、世界平和の促進にも資するところ大であると思ふ、なほ本條約を基礎として各種懸案が急速に具體的解決を見るに至るべきことも信じて疑はないのである

世界平和に貢獻
三國同盟の精神で交渉
談相首

さきに政府は日獨伊三國同盟條約を繼續し世界的規模の擴大を防止し、右條約を機軸として大東亞全局の平和を確保せんとする不退轉の決意を中外に表明したのであるが、これがためには日ソ兩國が永續的基礎の上に平和及び友好の關係を鞏固ならしめ、もつて上記同盟條約の精神を擴充强化することが必要缺くべからざることはいふまでもないところである、政府はこの信念に基づきソ聯邦との間の國交を根本的に調整せんがためかねてより交渉を重ねつゝあつたのであるがこの度松岡外相のモスクワ訪問を機とし双方の最高首腦會談を見ついに松岡外相、建川大使及びモロトフ・ソ聯外務人民委員間に四月十三日をもつて別に議定書を締結した旨を中立條約の調印行はるゝとともに別に兩國間の懸案をもつてわが方は蒙古人民共和國の、ソ聯邦はまた滿洲國のそれぞれ領土保全並びに不可侵を尊重しもつて兩ソ滿蒙間國境の平穩化を期することと相成つたのである

本條約が日ソ國交上劃期的意義を有することは勿論、世界平和の促進にも資するところ大であると思ふ、なほ本條約を基礎としてを緊密が急速に具體的解決を見るに至るべきことも信じて疑はないのである

日ソ中立條約成立す
松岡外相モスクワで調印
小麥、武器を好餌に
米、エアルを釣る
英國へ海空基地提供強要

【ワシントン十二日發同盟】アイケン・エアル國防調整相は國防調

政府が國防調整した在米獨伊戰艦に對し如何なる具體的措置を取る

右獨伊艦艇の處分に關する使命を帶びてゐるといはれる

なほ同氏は出發に際し「國務省の承諾を得て私的な商用のため滯歐するのだ」とのみ語り、その他一切の言明を避けてゐる

綠島基地協定
無効宣言

丁抹外相、米參事官に通告

英の作戰舞台化
斷乎一掃を決意

對希通牒

【ベルリン六日發同盟】獨政府の對希宣言書の要旨次の通り

ドイツはバルカン半島を戰爭の圈外に置かんがために英國の企圖に對して開時全力を擧げて抗爭する旨を繰返し宣言して來た、ギリシャ政府が中立態度を執るやう忠告を與へられたことはギリシャ自身に利益を與へる筈のものであつた、今にして思へばギリシャは一九三九年九月戰爭が勃發した時から英國とともに進みはじめたのである、一九三九年四月ギリシャが英佛の政治的保障を受諾した、この間は一九三九年十月ギリシャ政府がその年に期限滿了となるイタリヤとの友好仲裁條約の更改を

拒否

した時にはじめて明瞭に現れて來た、ギリシャは英國の政策に追隨することを繰返し言明して來たが、この點に關してはフランクリン・シャリテ市で發見された佛參謀本部および佛政府の公文書によつてギリシャ政府が秘密裡に行ひつつあつた政策の實體は明かである、獨政府はこれら文書を吟味しながらもその後ギリシャの政策の出方を注視し愼重自重して來たのである

リッベントロップ外相もまたかかる精神に基きギリシャ閣僚との會談に際し、熟心にギリシャ政府に對してその親英政策の中止方を勸告した、のみならずヒットラー總統はその公式言明でドイツはギリシャ領土內の英軍の存在を斷じて默認し得ない旨繰返しギリシャ政府に警告したのである、しかるにギリシャ政府はこれらの警告を完全に

無視

した、その理由は明かである、ギリシャの行動の方向は當時からすでに英國が決定してこれをギリシャに押しつけたのである、その結果は對伊開戰に當つては英國からの援助をたゞ飛行技術部隊の派遣にのみ限定してゐたが、やがてクレタ島の占領後間もなく事態は完全な英軍部隊がギリシャに上陸しすべての戰略的要地を占擄した

ギリシャは公然たる英軍の作戰舞台と化したのである、且下英軍は上陸、輸送等大規模な行動を續けてをり、米國國務省は約廿方の英軍がギリシャで戰鬪參加にあることを確認してゐる、しかもギリシャ國民は何も知らない、さればこそギリシャ政府のこの無責任極まる政策による罪科は一層深刻を加へるのだギリシャ政府はかくしてドイツが最單拱手し得ざる事態を自ら招くに至つた、以上の理由によつて獨政府はその軍隊に對して英軍をギリシャ領土より撤去せよと命令したのである、獨軍は斷じてギリシャ國民の敵として行動するものではなく、また獨國民はギリシャ國民と戰ひこれを損傷せんとする意圖の毛頭もないことを特に強調する

複寫嚴禁

東京日日新聞　（第三種郵便物認可）　（木曜日）

獨の對ユーゴ・希最後通牒文

ドイツのユーゴ、ギリシャ攻撃の進撃は友邦イタリヤ軍とともに各戰線において次々に敵の要衝を占領、すでにユーゴ軍を潰滅せんとしてゐるが、ドイツのバルカン進撃にさきだちリッベントロップ獨外相からベルリン駐在のユーゴ、ギリシャ兩國公使に手交した最後通牒はヒットラー總統が進撃を決意するに至る眞相を物語る歴史的文書として重要視されてゐるが、右ドイツ政府のユーゴ、ギリシャ兩國政府に對する通牒文言は次の通りである

陰謀の〝假面〟暴露

獨の融和政策を裏切る

對ユ通牒

【ベルリン六日發同盟】ドイツ政府のユーゴ政府に對する公式覺書要旨は左の通りである

英國は過去の數年間打開のためバルカンに於いて數次新戰線を設けるべく絶大の努力を續けてゐた、英國はユーゴスラヴィヤをもつて全バルカンを獨の中に投するための好個の戰線と自したのである、ドイツの政策はかゝる英國の政策と好對照をなしドイツは常にバルカンにおける緊張せる利害の調整をなすべく努力して來た、ムッソリーニ伊首相の政策もまたこれと並行して伊ユーゴ兩國關係を新なる友好的基礎の上においた、獨、ユーゴ兩國が友好的協力に到達し春のはヒットラー總統及び當時のユーゴ首相ストヤディノヴィッチ氏の先見の明ある政策に由來するものであつた、ストヤディノヴィッチ內閣の倒壞に次いで、ドイツに敵し

敵意

あるかつてのユーゴ國外交政策への復歸を策謀する強力な外國勢力がユーゴ國內に働きかけてゐるとが明白になつた、今ユーゴ政府は早くもサロニカ灣に於ける英軍上陸に關聯して

利害

ユーゴ國は三國同盟に參加したのである、ウィーンにおいて到達した協定は次の通りであつた

一、ユーゴ國の主權と領土保全は三國同盟參加國によつて確認した

一、獨逸國はユーゴ國內を通じて軍隊の通過運輸を行はず如何なる形式の軍事的援助をも要求せざることを保障した

一、歐洲新秩序の中においてユーゴ國はエーゲ海に出口を獲得しサロニカの市街および港灣にその領土的主權を行使する保障を與へた

この嚴肅なる保障に對してユーゴ國の支持に吝きものはわれらの大陸の再組織と歐洲の他の諸國と眞摯なる協力をなす約束以外何ものも求められなかつたのである、しかるにベルグラードにおける一部職業者達は極めて露骨的態度をもつて君々に應へたのである、ユーゴ國の恒久的安全と國民の幸福なる將來を保證した條約に全く反をもつて署名したユーゴ國大臣達はベルグラード市民と同時に熱狂された、職業家共が權力を掌握した時、ベルグラードはその

假面

を脫いだのである、かくて前代未聞のテロリズムの波はユーゴ全國を襲ひ獨逸國およびその友邦に敵する人間の暴くに狙害を加へるに至つた、ユーゴ政府の眞の外交政策は今や全く明瞭となつた現在の統治者達が取らんとしつゝある行動の眞義は明々白々である、即ち

一、全ユーゴ國軍の動員は命令された

一、英參謀將校は既にベルグラードに到着、ユーゴ軍との連絡に當つてゐる

一、ユーゴ參謀將校はギリシャに派遣され同地で作戰しつゝある英希聯軍との連絡は既に成立した

かくてドイツ政府はベルグラードの犯罪者一派が策動を續けることを默過しユーゴが英國參戰政治の好個の戰場となることを容認するわけには行かない、ドイツはその有する全方法を盡して任務を遂行するであらう

スコプリエ占領

ユーゴ戰線　ユ軍二萬を捕虜

【ベルリン本社特電九日發】ブルガリヤから進入したリスト元帥麾下のドイツ軍は八日スコプリエを占領、ユーゴ、英希聯合軍間の連絡を遮斷した

【ベルリン本社特電九日發】ドイツ軍司令部九日發表＝一、ドイツ軍は南セルビヤ地方において次々の將軍を含むユーゴ軍二万を捕虜とせり

一、ギリシャのメタクサス戰はわがアルプス步兵師團によつて突破せられたり

伊軍、クラニに入城
占領

【ローマ本社特電九日發】ステファニ通信前線からの報道によれば伊軍はアルバニヤのスクタリ湖を渡つてアルバニヤに進擊したユーゴ軍は九日午前四時（日本時間同日正午）ギリシャ國境を越えてマケドニヤ地方に進擊を開始した

サロニカ

サロニカ灣に臨む要港であり、交通もこの地点によつて完全に遮斷されるわけである

サロニカ灣に臨む要港であり、鐵道の中心地、ギリシャの古都として有名で、綿、羊毛製品の產地としても知られてゐる、人口約廿四万、位置からいつてもエーゲ海を支配する要衝である

新西蘭兵　希軍に發砲

英、例の逃げ腰で督戰

【ベルリン本社特電九日發】スツルマ溪谷の激戰においてニュージーランド兵はギリシャ軍に對して發砲、四十名の死者および多數の負傷者を出したが、原因はギリシャ兵の退却を阻止せんとしたためでギリシャ軍參謀部はこれに對しニュージーランド兵の撤退を要求した

【ベルリン本社特電九日大島特派員發】東南戰線の進展は獨軍に有利に展開しつゝあり、まづ希軍は第二日目五十二機を撃破、戰車二日で早くも獨軍の手中に落ちたものとみられるに至つた、

ジェロ紙ブダペスト特派員の傳へるところによれば、ユーゴ政府ならびに同最高軍司令部はニッシュの北方に移轉したと

檜原製

疾風サロニカに入城

ギリシヤ戰線 獨軍決河の南下

【ロンドン本社特電九日發至急報】信ずべき筋によればドイツ軍は九日午前四時（日本時間同日正午）ギリシャのエーゲ海の要衝サロニカに入城した

【ベルリン九日發同盟至急報】九日當地に達した情報によればドイツ軍は南方に退却しつゝあり、希兵は早くもサロニカを帝選、ヴァルダル河西方に新な防禦陣地を構築しつゝあり

サロニカ

サロニカ灣に臨む要港であり、鐵道の中心地、ギリシャの古都として有名で、綿、羊毛製品の產地としても知られてゐる、人口約廿四万、位置からいつてもエーゲ海を支配する要衝であり、トルコとギリシャとの交通もこの地点によつて完全に遮斷されるわけである

スコプリエ占領

ユーゴ戰線 ユ軍二萬を捕虜

【ベルリン本社特電九日發】ブルガリヤから進入したリスト元帥麾下のドイツ軍は八日スコプリエを占領、ユーゴ、英希聯合軍間の連絡を遮斷した

【ベルリン本社特電九日發】ドイツ軍司令部九日發表＝一、ドイツ軍は南セルビヤ地方において六名の將軍を含むユーゴ軍二万を捕虜とせり

一、ギリシャのメタクサス線はわがアルプス步兵師團によつて突破せられたり

伊軍、クラニー占領

【ローマ本社特電九日發】ステファニ通信局からの報道によれば伊軍はアルバニヤのスクタリ湖を渡つてアルバニヤに進擊したユーゴ戰線 希軍に發砲

新西蘭兵 英、例の逃げ腰で督戰

【ベルリン本社特電九日發】スツルマ溪谷の激戰においてニュージーランド兵はギリシャ軍に對して發砲、四十名の死者および多數の負傷者を出したが、原因はギリシャ兵の退却を阻止せんとしたためでギリシャ軍參謀部はこれに對し

【ベルリン本社特電九日發】ブルガリヤ軍參謀部九日發表＝ユーゴ軍の降伏を容れ、ギリシャ戰線においてニューランド兵はギリシャ軍に對して發砲、四十名の死者および多數の負傷者を出したが、原因はギリシャ兵の退却を阻止せんとしたためでギリシャ軍參謀部はこれに對し

ジェロ紙ブダペスト特派員の傳へるところによれば、ユーゴ政府ならびに同最高軍司令部はニッシュの北方に移轉したと

三月十日の新聞

獨ユーゴ・ギリシヤ最後通牒文

遂に白割れ

人氣一段と惡化

價額は豫想外縮小して決定する模様と傳へられてゐる、これは輸出同業團用との計畫生產において輸出用と國內用に輸出の數量を超過した場合國內用に輸出の融通性を具備して置きいはゆる水陸兩樣的性能を與へて置くためである

各市場大引（單位錢）

九日 前場 前日比較

昭和新東	二〇安	同安
昭和新興	八安	同安
生糸先限	二四安	三四安
大阪綿花先限	五安	五安

內地積戻增大

製品界の實行は順調であり時日の經過と共に內地積戻割當の手持は漸減してゐるので最近この方面からの申告は續に增加してゐる、殊に撚糸方面の原料在荷は少く製品界の實情からして交易物で千六百五十四貫當

暴露を裏切る

利害

假面

を脫いだのである、

かくて前代未聞のテロリズムの波はユーゴ全國を覆ひ獨軍團およびその友邦に關する人間の悉くに迫害を加へるに至つた、ユーゴ政府の眞の外交政策は今や全く明瞭となつた現在の統治者達が取らんとしつゝある行動の眞意は明々白々である、即ち

一、全ユーゴ國軍の動員は命令された

一、英參謀將校は既にベルグラードに到着、ユーゴ軍との連絡に當つてゐる

一、ユーゴ參謀將校はギリシャに派遣され同地で作戰しつゝある英希聯軍との連絡は既に成立した

かくてドイツ政府はベルグラードの犯罪者一派が策動を續けることを默過しユーゴが英國金權政治の好個の地盤となることを容認するわけには行かない、ドイツはその有する全手段を盡して任務を遂行するであらう

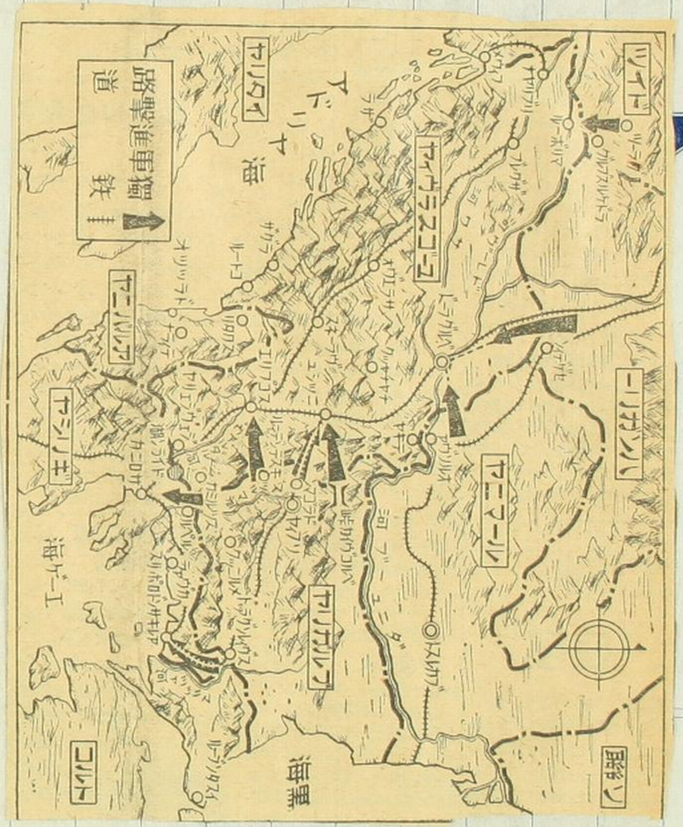
は三國同盟參加國によつて確認した

一、獨逸國はユーゴ國內を通じて軍隊の通過通過をはゞ如何なる形式の軍事的援助をも要求せざることを保證した

一、歐洲新秩序の中においてユーゴ國はエーゲ海に出口を獲得しザロニカの市街および港灣にその領土的主權を行使する保證を與へた

この廣汎なる保證に對してユーゴ國の支持と助きものはわれらの大陸の再組織と歐洲の他の諸國と眞摯なる協力をなす結果以外何ものも求められなかつたのである、しかるにベルグラードにおける一部統治者達は獨逸と獨國所感度をもつて吾々に應へたのである、ユーゴ國の恒久的安全と國民の幸福なる將來を保證した條約に全權をもつて署名したユーゴ國大臣達はベルグラード關係と同時に捕縛され、統治者達が權力を掌握した時、ベルグラードはその

標準製



三月十日の
我開形勢

江戸城の地震の間

大熊喜邦

科学

先頃本紙に載せられた「高田氏の『彦根城地震間』を讀んで面白いと思つた。彼の地震の構造觀を少し調べて見たことのある私には殊に興味深い。

今は無いが江戸城内の本丸と西丸の殿舍の間に地震の間、または地震御殿と稱する小さい建物が在つた。この地震御殿はある時代の殿舍の間取圖に示されてはゐるが余りに小さく、氣が付かないのとその構造を書いた圖が判らないで余り世間には知られてゐない。

だが私の所藏する江戸城資料の中にその地震の間の地圖（平面圖）と建地圖（構造圖）とが有るので、その當時の地震の間なる建物を多少了解することが出來るから、それに就いて少しく書いて見よう。

江戸城のは地震の間といふが、京都御所の淸涼殿と同じやうに小規模の單純な間取の裏立した建物である。

地震の間が出來た時期に就いてはよく判らないが、明曆大火直後の万治造營の本丸殿舍の繪圖にはその中奥御休息所（本丸表御殿に屬するところ）の間續き山の疊と大廣間御對面所間の中庭とに地震の間が設けられ、また西丸御殿の中奥休息所間にも見えてゐる。

万治造營の本丸殿舍は万治二年の造營で天保十五年に火災に罹り、地震の間の示されてゐる西丸殿舍は寛安三年の改造で天保九年燒亡したものである。又享保元文の頃の西丸殿舍圖には「チシンノヤ」といふのがありまた「チシン御殿」がある。その位置は何れも先の地震の間の位置と符合してゐる。そして天保・嘉永・元治の圖には途に地震の間を見ない。

これによると寛安頃以前に果して地震の間が設けられてをつたかを詳にしないが、寛安・万治以降の殿舍の構造には江戸城内にも地震の間なるものが設けられてゐたと考へることが出來る。

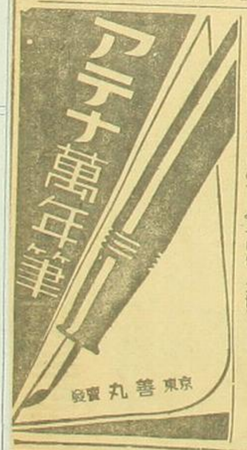
江戸城内の地震の間は何れもの休息所：將軍の晝間の休息の間：及對面所：將軍の晝間の執務と對面所の殿舍より遠からぬ所…から少し離れて孤立して建てられた小規模のもので、休息所前の分は九尺に十二尺の一と間で、その周圍に幅二尺五寸の緣を廻し、更にその四周に幅四尺の土緣を設けた全體で幅二十尺も長さ二十五尺の極めて單純なものである。

また大廣間面所前のは少し小さく、九尺四方の一と間で四周に土緣を廻へた全体で二間半四方のものである。

地震の間の形は、四方入側付造り、壁根は入母屋造りの柿葺床は地上に掘あげた板敷で入側は土間である。

柱は地中に埋込んだ掘建柱で、その外廻は地中四寸角、地上二寸下に地際土台と稱する廻さ五寸、幅七寸程の土台を廻へ、その上に、本柱は地中六寸角、地上に四寸角に細めた角柱、その外廻りの入側柱は地中四寸角、地上二寸七分の角柱を建て、

そして地表面から少し下の地中で「地底桁はさみ」といふ六寸角の木を以て一列毎に縱橫に柱の脚側から柱を挾み、柱抜い



更に中央の間にて三ケ所、入側の部にて一ケ所、柱にて一ケ所づつ鎗鉄を以て繋り地中において柱を縱橫に結束してゐる。

床は地表に据して疊かれた板敷で、角材の枠に板を張り四方に二ケ所の鍵をつけだ、取外し自由にしてあるが、其の理由は判らない。土緣は扇圓に十個の角材を並べ、芝を植付けたものである。

屋根は入母屋造りで大板を二枚宛ねに張り柿葺にしたもので天井は無い。構造としては總て網代編子が用ゐられてゐる。

これが江戸城内に在つた地震の間で一時的避難所であるが、其の地下の構造を調査した。

地底土台と地底桁とを以て結束してゐるのと、屋根の重量を大板二重として輕量な柿葺としてゐるのと、床を低くしてゐるのは當時の地震に對する構造觀念とされるもので、今日から見れば幼稚ではあるが決して輕つてはをらず、地震によつて壞されるものではない。

この際、安政御造營の時はじめて建てられた京都御所の推古地震觀…高田氏も一寸觸れられたが…について安政御造營誌の什様書を記すと、一帖の土間に三帖と六帖の二間、それに半間の土庇と側とを有する建物で桁行二間半、梁間二間半、屋根打越棟木形、アハラ木葺物上柿葺、軒高九尺三寸、軒出端二尺五寸、内御用溝、鴨居長押、床高九寸で、家の周圍は縁てが板敷であるが、土庇の方はカケ戸となつてゐる。

この外に地震の間では無いが安政大地震の直後當時の發明家によつて民家の耐震耐風的構造法が發表されてゐる。（完）（筆者は觀震閣主紙幌、工博）

複原製

（明治廿五年三月十一日第三種郵便物認可）

松岡外相盟邦に入る

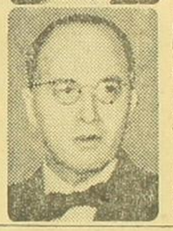
獨宣傳相、歡迎を全市に布告

總統と二回會談豫定

【ベルリン特電二十六日發】松岡外相一行を乘せた特別列車は二十六日午前零時十二分ドイツ國境旧ポーランド領のマルキナに到着、深夜の零下廿度でドイツ側出迎委員代表スターマー大使等の出迎へを受け盟邦ドイツの地に第一歩を印した、晴れのベルリン入りは二十六日午後六時（日本時間二十七日午前一時）の豫定であるが、最高の國賓待遇をもつて松岡外相一行を迎へようとするドイツ側の歡迎準備は大詰りを告め、二十五日夜ゲッベルス宣傳相の名において次のごとき布告が全ベルリン市民に發せられた

松岡外相の歡迎には全ベルリン市民がこれに參加すべく、その際ドイツ國民は日本國民に對する親愛の情が最高度にかつ印象的に表現されなければならぬ

同時にゲッベルス宣傳相は全市の各住宅に日獨兩國旗の掲揚を命じ松岡外相一行の到着する二十六日には午後二時限り、ベルリン全市の商店は店を閉ぢて、從業員に日本外相歡迎の盛會を期へるやう勧告した



昨年西部戰線より凱旋したヒットラー總統を迎へる歡迎準備が丁度この調子であつた【寫眞は（上）松岡外相（下）スターマー大使】

【ベルリン特電二十五日發】松岡外相のベルリン滯在中の日程は目下つぎのごとく內定してゐる、滯在四日間を通じてヒットラー總統と二回、リッベントロップ外相と五回、その他ゲーリング元相、フンク經濟相等ドイツ政府首腦部との個別的會見が豫定されてゐる、二十六日午後六時ベルリンのアンハルター驛着、チーアガルテンの國賓宿舍ベルヴュ城に入る、二十七日朝無名戰士の墓に花環を捧げついでリッベントロップ外相と第一回會談、午餐はリッベントロップ外相招宴、午後ヒットラー總統との第一回會見、夜リッベントロップ外相の招宴、二十八日午前フンク經濟相訪問、ヒットラー總統との午餐、夜リッベントロップ外相を主賓とする日本側の招待宴、二十九日ゲーリング元相との會見三十日ポツダム觀兵、リッベントロップ外相と午餐、午後ローマへ出發、四月四日再びローマよりベルリンに歸還、以後は未定である

【マルキナ（獨ソ國境）廿六日發同盟】松岡外相一行は廿六日午前零時十二分獨ソ國境マルキナ驛に到着したが、國境にはリッベントロップ外相代理スターマー大使以下三百名に上るドイツ人が警察隊を先頭に出迎へ、深夜の驛頭に劃期的な光景を出した、松岡外相は驛の貴賓室に招じ入れられ、スターマー大使等と約三十分間歡談を交はした後零時五十分國境驛を出發、一路ベルリンへ向つた

原寫

相會す日獨外相

ベルリン着の松岡外相（右）を迎へるリッベントロップ外相（左）

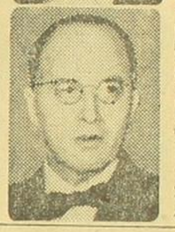
讀賣新聞

（明治廿五年三月一日第三種郵便物認可）　昭和十六年三月二十七日　月曜

松岡外相盟邦に入る

獨宣傳相歡迎を全市に布告

總統と二回會談豫定



【ベルリン特電二十六日發】松岡外相一行を乘せた特別列車は二十六日午前零時十二分ドイツ國境旧ポーランド領のマルキナに到着、深夜の國境でドイツ側歡迎委員代表スターマー大使等の出迎へを受け獨邦ドイツの地に第一歩を印した、晴れのベルリン入りは二十六日午後六時（日本時間二十七日午前二時）の豫定であるが、最高の國賓待遇をもつて松岡外相一行を迎へようとするドイツ側の歡迎準備は大掛りを極め、二十五日夜ゲッベルス宣傳相の名においてつぎのごとき布告が全ベルリン市民に發せられた

松岡外相の歡迎には全ベルリン市民がこれに參加すべく、その際ドイツ國民は日本國民に對する親愛の情が最高度にかつ印象的に表現されなければならぬ

同時にゲッベルス宣傳相は全市の各住宅に日獨兩國旗の掲揚を命じ松岡外相一行の到着する二十六日には午後二時限り、ベルリン全市の商店は店を閉ぢて、從業員に日本外相歡迎の聲を聽くやう布告した

昨年西部戰線より凱旋したヒットラー總統を迎へる歡迎準備が丁度この調子であつた【寫眞は上が松岡外相、下がスターマー大使】

【ベルリン特電二十五日發】松岡外相のベルリン滯在中の日程は目下つぎのごとく內定してゐる、滯在四日間を通じてヒットラー總統と二回、リッベントロップ外相と五回、その他ゲーリング元帥、フランク總督等ドイツ政府首腦部との個別的會見が豫定されてゐる、

二十六日午後六時ベルリンのアンハルター驛着、チーアガルテンの國賓館ベルヴュ城に入る、二十七日朝總統との第一回會談、午餐はリッベントロップ外相官邸、午後ヒットラー總統との第二回會見、夜リッベントロップ外相の招宴、二十八日午前ツンク經濟相訪問、ヒットラー總統との午餐、夜リッベントロップ外相を主賓とする日本側の招待宴、ゲーリング元帥との會見三十日ポツダム訪問、リッベントロップ外相と午餐、午後ローマへ出發、四月四日再びローマより歸國、以後は未定である

【マルキナ（獨ソ國境）廿六日發同盟】松岡外相一行は廿六日午前零時十二分獨ソ國境マルキナ驛に到着したが、國境にはリッベントロップ外相代理スターマー大使以下三百名に上るドイツ人が首都隊を先頭に出迎へ深夜の驛頭に嚴肅な感激を現出した、松岡外相は驛頭に招じ入れられ、スターマー大使等と約三十分間歡談をした後零時五十分國境驛を出發、一路ベルリンへ向つた

原寫

（明治廿五年三月一日第三種郵便物認可）　昭和十六年三月二十四日　月曜

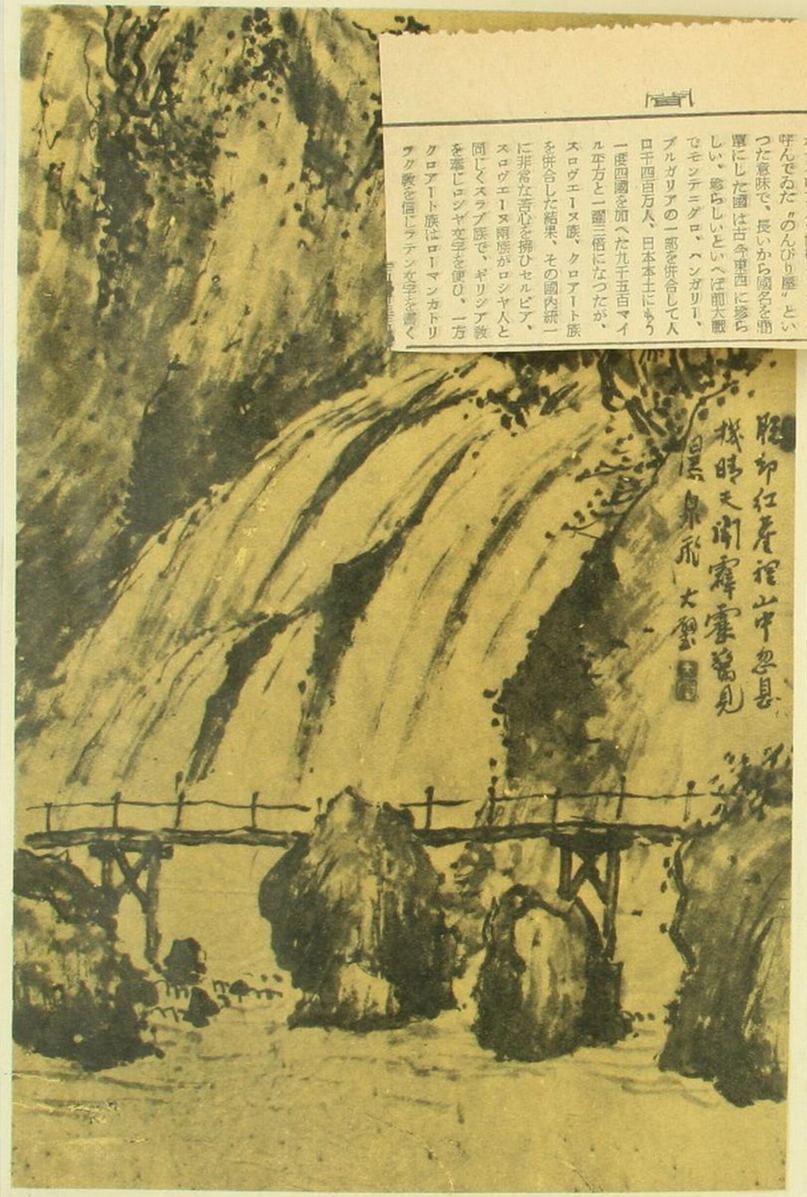
相會す日獨外相

ブルンベルク陸軍元帥（左）と伯林驛頭で握手を交はす松岡外相（右）

獨國旗の波に埋め

伯林を擧げて歡迎

ベルヴュ宮に第一夜



朝日新聞　月曜日（木曜日）　十二月二十七日

内紛も今は昔日

二文二種の國民が一丸に團結

バルカン 第一の鑛産國

ドイツと英國との中間に立つて、最度かその去就を注目された中欧スラヴイアも、遂に世界の正しい潮、三國同盟に參加調印した、即初の應擊げをしたといふ以外に、經濟的にも、文化的にも、日本と關係が淺かつたので、バルカン一の強國で、美人の國、詩の國ユーゴーの事情は、一般には餘り知られてゐなかつた、實て一等書記官として同國にありバルカンの權威として知られる國際帝主義公使館附國策研究會理事長松原一雄博士の話を中心に新らしい關邦ユーゴーの表情をしよう

人種と

アッショ・イタリアに親善的であると同時に、反對に非常に過激で組織だた數分子も相當にをつた、スロヴエーヌおよびセルビア人の間には同文、同種からソ聯に近づく感情が強く、反ドイツ感も多分にあつた、しかし政治的に見ると、現國王ペテロス二世の父君アレキサンダー一世が今から七年前マルセーユでクロアート出身の共産主義者の暗殺に遭はれたのと、王家が旧ロシヤのロマノフ王朝と姻戚關係にあり、しかもセルビアがトルコから獨立するのに際し、物質的にも、軍事的にも、多大の支援を與たロマノフ王朝を聖した現ソ聯に對しては強い反感を持ち、歐洲でソ聯と結めない最後の國であつた

かうした民族的の

關係から

ユーゴーも、現國王の教父君で獨政會議々長であるペタル攝王の強力な統制力で、グン〳〵強くなり現在三千ケ師の常設軍隊を持ち遂にバルカン第一の強力國家とまでなつた

ユーゴ

Iが昨冬以來二月十三日スタシヨヴイッチ博士一行のベルリン訪問迄いて三月三日ベウル攝王のヒトラー總統との會見と國際

第一次大戰の口火を切つて跡け太つたセルビアは國名もセルブクロアートスロヴエーヌ王國と長い名前になつた、このセルブクロアートスロヴエーヌがユーゴースラヴイアと變つたのは、今から十年前一九二九年十月三日である

國名を

ユーゴースラヴイアと變へた原因は國際會議で一一長い國名を縮ぶのに不自由だから、なんとか短く國名を訂正してほしいとの別國の要望に基いたもので、元のセルビアではクロアート族、スロヴエーヌが承知せず、遂にユーゴースラヴイアと決定されたものであつた

ユーゴーとはドイツ語で獨逸人がセルビア人を俗稱ユーゴーと呼んでゐた"のんびり屋"という意味で、長いから國名を簡單にした國は古今東西に珍らしい、珍らしいといへば大戰でもモンテニグロ、ハンガリー、ブルガリアの一部を併合して人口千四百万人、日本本土にもう一歩四國を加へた九千五百マイル平方と二重三重になつたが、スロヴエーヌ族、クロアート族を併合した結果、その國内統一に非常な苦心を拂ひセルビア、スロヴエーヌ兩族がロシヤ人と同じくスラブ族で、ギリジア教を基にロシヤ文字を使ひ、一方クロアート族はローマンカトリック教を信にラテン文字を書く

ため、今日でも、國語はもちろん、新聞雜誌に至るまでロシヤ文字とラテン文字の二種に書かれてゐる、學校の生徒も各自の家庭によつて寫眞を二種に書くといふ世界にも比類のない國で旅行者を驚かせる

獨り文字だけでなく實では民族の中に統一された感情がなく、クロアート人は

父君アレキサンダー一世が今から七年前マルセーユでクロアート出身の共産主義者の暗殺に遭はれたのと、王家が旧ロシヤのロマノフ王朝と姻戚關係にあり、しかもセルビアがトルコから獨立するのに際し、物質的にも、軍事的にも、多大の支援を與たロマノフ王朝を聖した現ソ聯に對しては強い反感を持ち、歐洲でソ聯と結めない最後の國であつた

かうした民族的の關係から

ユーゴーも、現國王の教父君で獨政會議々長であるペタル攝王の強力な統制力で、グン〳〵強くなり現在三千ケ師の常設軍隊を持ち遂にバルカン第一の強力國家とまでなつた

ユーゴ

Iが昨冬以來二月十三日スタシヨヴイッチ博士一行のベルリン訪問迄いて三月三日ベウル攝王のヒトラー總統との會見と國際

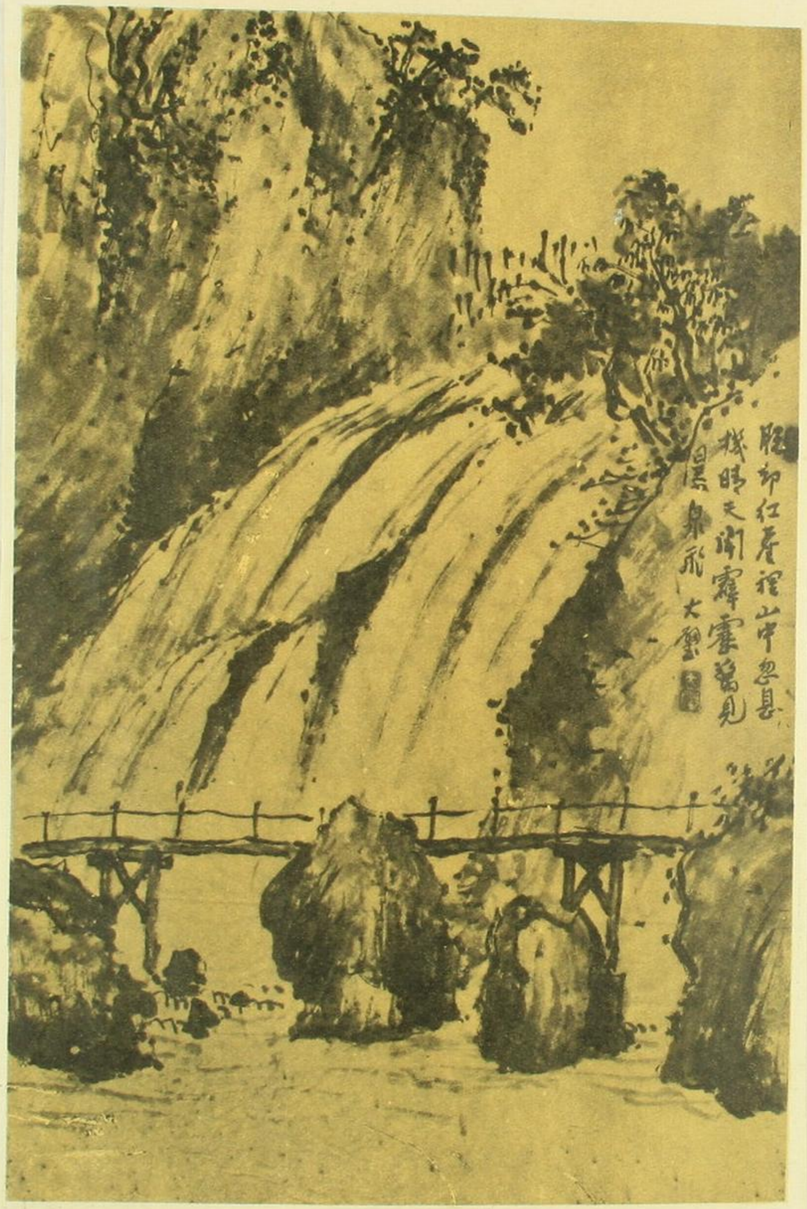
國民の

の大部分が農民なので、その性格は朗健、豁達、婦人は美しい、黄、赤、青と原色の服をまとひ、自分の手で織した繪畫な服裝で舞つてゐる、歌が好き、祭や結婚式にはチブシーの樂にヴアイオリンを奏きカスタネットを鳴らして踊り狂てる明朗な風景だ、マセドニアには"呼ば止められて振り向くな"といふ旅行者への警告がある、この地方の人々の氣風日本人氣に上州長脇力と似てゐて氣短でさつぱりし、親切、出人が好きで、後から"待て"とやる、しかし振りむかない者を深追から打つやうな卑怯なことはしない、日本との關係は經濟上でも文化的にも益々なく密接ユーゴーとして今後に期待がかけられてゐる

か國朝外交に近よると見たのが、三月十日三ケ國同盟參加延期とたつたのは、背後から英國一流の必死の手段があつたためである、ユーゴーが歐州から注目されてゐるのはギリジアへのコースであり、バルカンの中心点であり、ドナウの要点であるほか、石油こそ無いがバルカン第一の鑛産國で軍事に無くてはならない銅、鑛、ボーキサイドが豊富で、これらの産物が下シ〳〵機構國に向つて流れることは英國にとつては大きな打撃である、石油ある故關んだルーマニアと同じく重要あるため苦しんだユーゴーである

水清きヴアルタル川のほとり古き歴史を物語つて、そそり立つウスクプの古城、緑樹にかこまれたウエルデスの湖――ユーゴーもまた美の國であり詩の國である、ハンガリー風とロシヤの風俗とが混淆してゐる、雅致深いサラエヴオの美人も歐州の憧れの的である

複製禁止



朝日新聞 昭和十五年（一九四〇）二月二十二日（木曜日）

今は昔

バルカン 第一の鑛産國

一九に團結 種の國民が

ど機軸一色に塗られ、外交制覇を好感されて、人氣も俄に明朗化し かつ獨逸一派の出動による戰果を導へられて前日來再び強調を呈して來た船株はさらに買氣集中して軒並新高値へ躍進し、船株中心の商勢を示し、これにつれて雜株も總体小幅ながら、短期筋果も五円四十銭の高値へ吹いたが、戻りは依然たしい處、三國同盟に參加調印した、即大戰に際會國側として最買物嵩かす四円七十銭に大引したに、經濟的にも、文化的にも、日本と關係が濃かつたので、バが、一般には賣り繼ぐなかつた

後場は軟化

船場引續の國にありバルカンの鑛山として知られる前時商勢は長期が一厘に利食軟化から後場は長期が一厘に利食賣押し商狀を示し、短期も一歩下押した

▽短期新東手口（前場）賣方金千、㊧四百、㊨三百株△買方岡千、玄七百、大六百㊧四百、野三百株

船株全面硬化

買ひれから一歩を揃いた氣先ながら船株のみは仔外下諮つて底強さを見せてゐたが、獨逸線の戰果擴大やバルカン情勢の緩和期へ快定

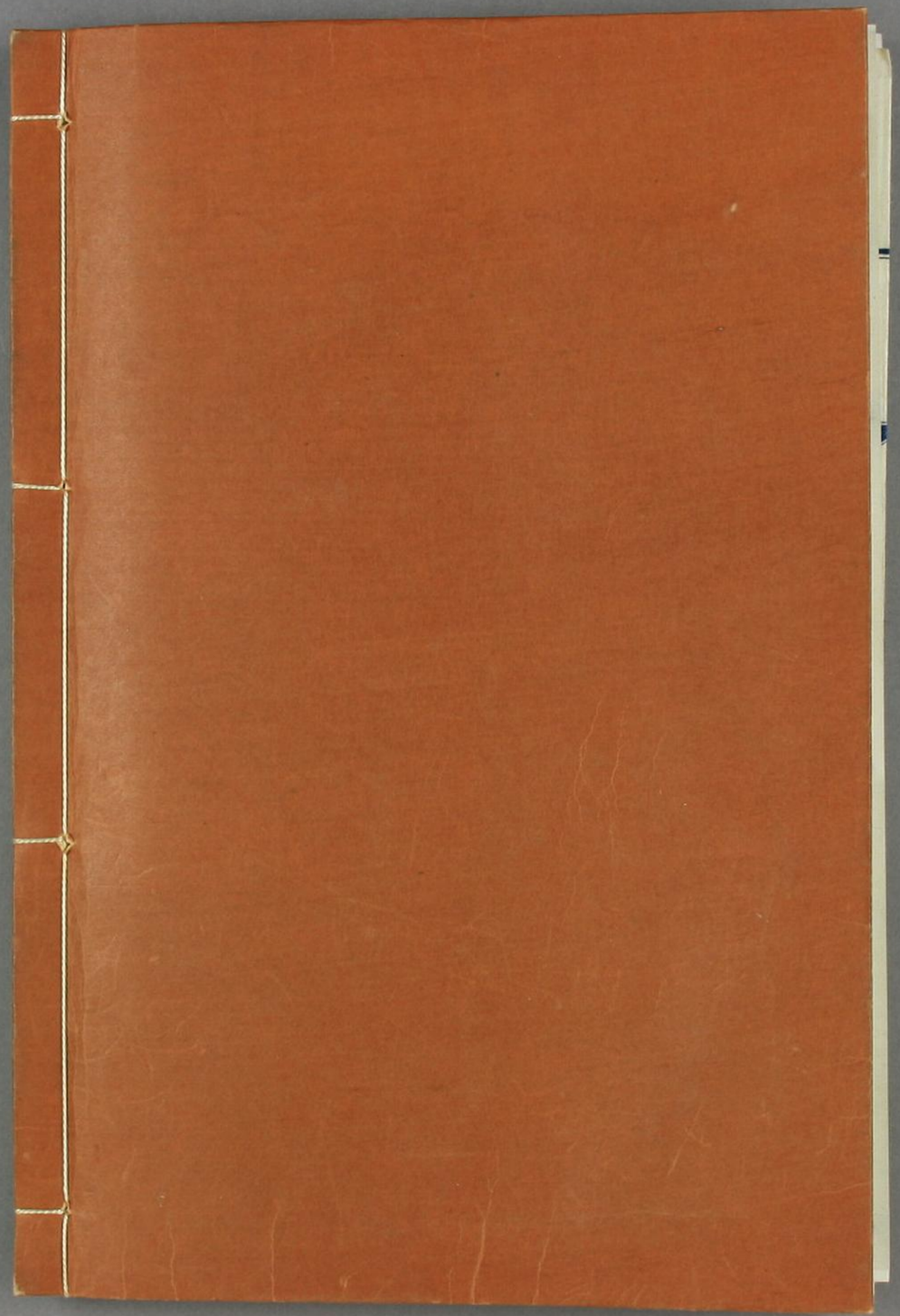
人種と

衆の關係からアッショ・イタリアに親善的であると同時に、反對に非常に過激で氣短で組織な左翼分子も相當にをつた、スロヴェーヌおよびセルビア人の間には同文、同種からソ聯に近づく傾向が強く、反ドイツ感も多分にあつた、しかし政治的に見ると、現國王ペテロス二世の父君アレキサンダー一世が今から七年前マルセーユでクロアート身の共産主義者の暗殺に遭はれのと、王家が旧ロシヤのロマノフ王朝と姻戚關係にあり、しかもルビアがトルコから獨立するの際し、物質的にも、軍事的にも多大の支援を得たロマノフ王朝感した現ソ聯に對しては強い反を持ち、歐洲でソ聯を認めない後の國であつた

かうした民族的の憎みを持つ1ゴーも、現國王の叔父君攝政會議の長であるパウル親王の強力な統制力で、グン〳〵なり現在三十ケ條の積極軍ノ持ち姿にバルカン第一の鑛家とまでなつた

ユーゴ

1が昨冬以來、十三日スタンイッチ博士一行のベルリン覆いて三月三日パウル攝王のヒトラー總統との會見と發表

にも危となく關邦ユーゴーしし今後に期待がかけられてゐる

複製禁止